

地域スポーツイベントにおける 経済波及効果の計測と地域活性化戦略の構築

— 「第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレース」の分析を中心に—

中島弘毅・成耆政・鈴木尚通・大窄貴史

葛西和廣・竹内信江・田中正敏

A Study on Construction of Regional Activation Strategies
and Measurement of Economic Effects in the Regional Sporting Events

Koki NAKAJIMA・Kijung SUNG・Naomichi SUZUKI・Takashi OSAKO

・Kazuhiro KASAI・Nobue TAKEUCHI and Masatoshi TANAKA

〈 目 次 〉

- I. はじめに
- II. 長野県内におけるマラソン大会の概要
- III. スポーツイベントの経済波及効果の計測手法の考察
- IV. 第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレースの産業関連分析
- V. 第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレースへの参加者の実態と意識
- VI. 地域スポーツイベントによる地域活性化戦略の構築
- VII. おわりに

【注記】

【引用・参考文献】

【参考資料】

I. はじめに

戦後日本は高度経済成長を経て物質的豊かさを享受する一方、都市化の進展によって地域社会は衰退してきた。このような状況下において、昭和48年に経済企画庁は「経済社会基本計画－活力ある社会福祉のために」の中で福祉の拡大と人間性の回復を生活環境全体におし広げてゆくコミュニティー形成運動の中にスポーツを位置づけた。さらに、昭和60年代に入ると大幅な貿易黒字を背景に内需拡大が図られ、昭和62年の総合保養地整備法（リゾート法）にみられるようにスポーツによる地域開発が推し進められた。しかし、国民不在の大企業の為のスポーツを手段とした地域開発は、バブルの崩壊と共に地域に大きな傷跡を残すこととなった。

この様に地域の活力が低下してきている中、地域開発というハードの側面からの地域活性化方策からソフト分野で地域の活性化を図ることが模索され、その手段の一つとして最近の健康ブームと相まって注目を集めているのがスポーツイベントである。平成6年には何らかのスポーツイベントを開催した自治体は95.6%、その件数は64,167件に上る¹⁾。国際的にも TEAMS (Travel, Events and Management in Sports) といった会議が開催されるなどスポーツイベントの社会・経済効果が現在注目されている。

イベントは社会文化的効果ならびに経済的効果が期待されており²⁾、スポーツイベントにおいても同様の側面を有している。須田³⁾は日本の地域社会構造よりスポーツは社会統合機能と集団表象性を持つとし、地域社会におけるスポーツイベントの役割として経済的・社会的・政治的効果について分析し、スポーツイベントの効果を持続及び拡大するためには「地域密着型のイベント」にすることが必要であると述べている。大西⁴⁾はスポーツによる地域活性化を施設建設というハードの側面と市民のスポーツ参加というソフトの面からその効果について考察し、施設や組織を市民と自治体が協力して作ることの必要性を説いている。

(財)日本システム開発研究所の調査⁵⁾によると自治体の43.6%がスポーツイベントのねらいを「住民の地域に対する意識の高揚」とし、42.9%が「知名度・イメージの高まり」としている。これらは「入り込み客による宿泊・購買」の28.8%を大きく上回っている。開催効果の評価においても「土産の購買等による経済効果」は50%を下回っているのに対し、上記二つの社会的効果を合わせると93%にも及んでいる。このようにスポーツイベントは地域政策の魅力的な柱となっている。

また、スポーツイベントは遠方からの宿泊を伴う参加形態を有し、ツーリズムとしての側面も併せ持っている。2008年度の日本国内におけるツーリズム消費額は23.6兆円と推計され、ツーリズム産業が生み出した付加価値（直接効果）は11.5兆円、生産波及効果は51.4兆円となっている⁶⁾。

2006年12月には「観光立国推進基本法」が制定され、2007年6月には「観光立国推進基本計画」が閣議決定された。2008年には、観光立国の実現を総合的かつ計画的に推進するために観光庁が設置された。観光立国推進基本計画では基本的な方針が四つ掲げられ、その三つ目に「地域住民が誇りと愛着を持つことのできる活力に満ちた地域社会を実現」することとされている。

観光庁はニューツーリズムという旅行形態の高まりとともに、ニューツーリズムには①テーマ性、②地域性・地域への寄与、③参加・体験、④地元での交流の特徴があるとして「ニューツーリズム創出・流通促進事業」の実証事業の実施を行うなどニューツーリズムの市場活性化に力を入れている⁷⁾。また、ニューツーリズムの一つにヘルスツーリズムを規定し、観光立国推進基本計画（平成19年6月29日 閣議決定）において「自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態であり、医療に近いものからレジャーに近いものまで様々なものが含まれる」としている。このニューツーリズムのレジャーに近いものとしてスポーツ・ツーリズムがあるが、観光庁は平成22年にニューツーリズムの一つとして新たに「スポーツツーリズム」を挙げ、5月には第1回スポーツ・ツーリズム推進連絡会議を開いた。このようにスポーツイベントは、日本の観光政策の面からも新たな観光分野として位置づけられ、地域活性化の起爆剤として期待されている⁸⁾。

これまでスポーツイベントと地域活性化に関する研究は、山口⁸⁾、野川^{9)~13)}らによる一連のスポーツイベントとマネジメントに関する研究などがみられ、イベントの成功要因及び経済的効果、街のイメージづくり、住民相互の仲間意識、地域のスポーツ振興などについて指摘がなされている。経済効果については、世界中から観衆が集まりメディアの関心が高まるようなワールドカップやオリンピックなどの観戦型スポーツイベントの経済効果に関する研究は多くなされているが、地域の参加型スポーツイベントの実証的な経済効果に関する研究は野川¹⁴⁾による奥日光クロスカントリースキー大会における参加者の消費動向と経済効果の分析及び加藤¹⁵⁾によるアルペンスキー大会が開催地域に及ぼす経済効果についての研究などがみられる程度でありあまりなされていない。

よって、本研究では地域の参加型スポーツイベントに焦点をあて、塩尻市で行われたぶどうの郷ロードレースを事例として、その経済効果と同イベントの実態を明らかにするとともに地域活性化に向けての戦略を提示することを目的とした。

II. 長野県内におけるマラソン大会の概要

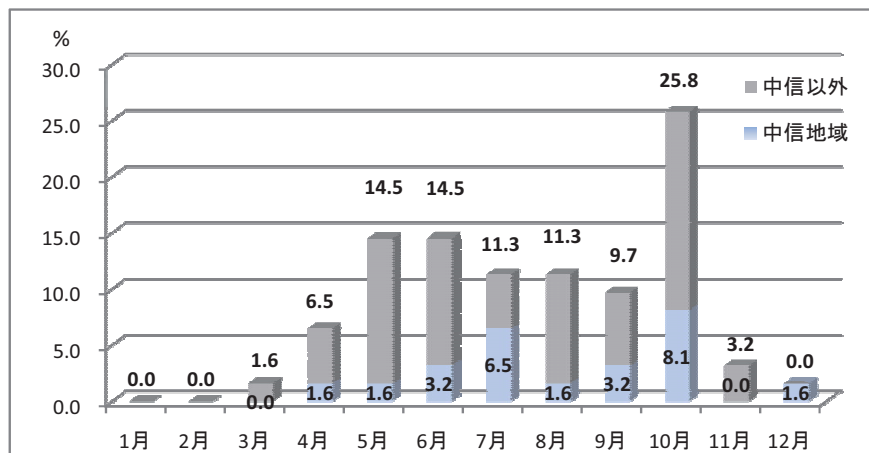
1. 本章における目的と研究方法

本章では2009年に長野県内で開催されたマラソン大会実施状況について、①県内全体及び中信地域と中信以外の地域（東信、北信、南信）における大会実施状況、②県内マラソン大会種目別実施状況、③マラソン大会運営に関する概要について、それぞれの基礎データを得ることを目的とする。これらの項目を分析するに際し、マラソン大会に関する企画、運営、大会ガイド及びマラソン大会エントリー業務等を行っている RUNNET¹⁶⁾、SPORTS ENTRY¹⁷⁾の2つのウェブサイトから2009年に県内で開催されたマラソン大会や大会運営等の情報を抽出し、分析を行った。

2. 県内及び中信地域におけるマラソン大会実施状況の概要

2009年に開催された県内マラソン大会の総数は62大会であった。県内マラソン大会月別実施状況、及び中信地域と他の地域別大会実施状況を図表Ⅱ-1に示す。地域別については全体を集計した後、塩尻マラソンが開催されている中信地域と他の3地域（北信、東信、南信）に分けて分析を行った。

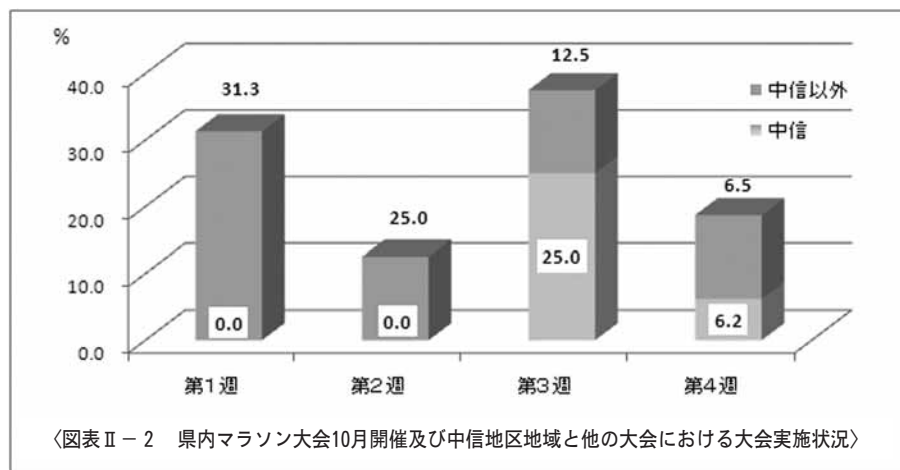
県内全域で最も多くマラソン大会が開催されていた月は、10月の16大会（25.8%）、2番目に5月と6月のそれぞれ9大会（14.5%）、3番目に7月、8月のそれぞれ7大会（11.3%）であった。1月、2月において県内マラソン大会は、実施されていなかった。



〈図表Ⅱ-1 県内マラソン大会月別及び中信地域と中信以外の地域別大会実施状況〉

次に、中信地域と他の地域におけるマラソン大会月別実施状況である。中信地域において最もマラソン大会が開催されていた月は、10月で5大会（8.1%）、2番目に7月の4大会（6.5%）、3番目に5月と9月がそれぞれ2大会（3.2%）であった。他の地域で最もマラソン大会が開催されていた月は中信と同じく10月に11大会（17.7%）であり、2番目に5月が8大会（12.9%）、3番目に6月が7大会（11.3%）であった。中信地域と他の地域による月別大会実施状況は、おおよそ各地域で同じような時期に大会が開催されていた。

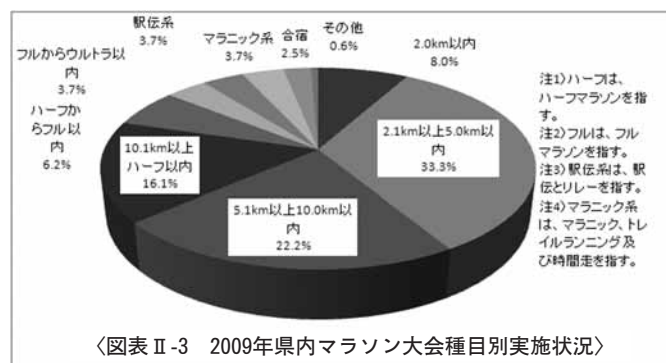
県内マラソン大会10月開催及び中信地域と他の地域における大会実施状況を図表Ⅱ-2に示す。2009年10月は4週であり、県内マラソン大会は各週末（土、日）と祝日に開催されていた。そのため図表Ⅱ-2は4週で示した。また、10月の祝日である体育の日は、2009年は10月12日月曜日であったため、一番近い週末である第2週の大会実施として含めて示した。10月開催されたマラソン大会総数は、16大会であった。そのうち、中信地域で開催された大会数は5大会であり、10月開催全体の3割強であった。県内10月開催で最も多かった週末は、第3週の6大会（37.5%）であった。続いて、第1週の5大会（31.3%）、第4週の3大会（18.7%）、第2週の2大会（12.5%）であった。中信地域のみで見ると、最も大会開催が多かった週末は、第3週の4大会（25.0%）、次いで第4週の1大会（6.2%）であった。第1、2週については、中信地域でマラソン大会が開催されておらず、第3、4週に大会開催が集中している状況であった。



3. 県内マラソン大会種目別実施状況

2009年県内マラソン大会種目別実施状況を図表Ⅱ-3に示す。各種目別について、各大会で行われた各種目のみ（年齢区分やウォーキング等は除外）を用いて集計を行った。県内マラソン大会種目の総数は、162種目であった。その中で一番多かった種目は、2.1km以上5.0km以内で54回（33.3%）、2番目に5.1km以上10.0km以内が36回（22.2%）、3番目に10.1km以上ハーフマラソン以内が26回（16.1%）であった。県内マラソン大会における10km以内の種目数の合計は103回（63.6%）であり、全体の6割強を占めていた。また、フルマラソンからウルトラマラソン、マラニック系（マラニック^{※注Ⅱ-1}、トレイルランニング^{※注Ⅱ-2}、合宿（夏季合宿）など県内の豊かな自然を活かした種目が16回でおおよそ1割を占めていた。

次に、2009年10月県内マラソン大会実施状況を図表Ⅱ-4に示す。県内大会で10月に開催された種目数の総数は、52種



目であった。県内マラソン大会種目数全体の3割強であった。10月における大会実施種目で最も多かったのは、2.1km以上5.0km以内の20回(38.5%)、2番目に5.1km以上10.0km以内が14回(26.9%)、3番目に10.1km以上ハーフマラソン以内が9回(17.3%)であった。県内マラソン大会10月開催10km以下の種目数の合計は37回(71.1%)であり、10月全体の7割強を占めていた。

中信地域における10月開催マラソン大会種目数は、図表Ⅱ-2に示す。中信地域では10月の第3週に4大会、第4週に1大会の計5大会が開催されていた。このうち最長10km以内で実施している大会は、5大会中2大会であった。また、10km以内の種目を含む大会は5大会すべてであった。中信地域において、10月第3週に10km以下の種目を含む大会が集中していた。

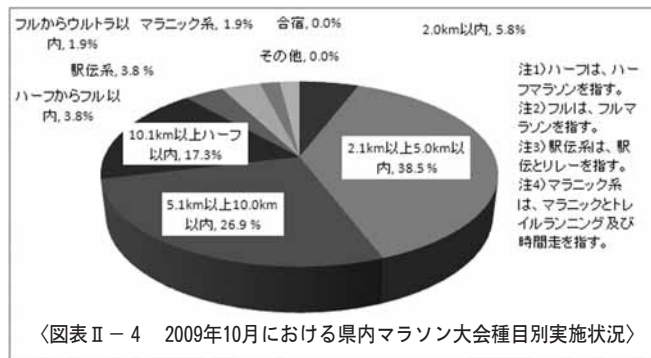
4. 県内マラソン大会運営状況の概要

ここでは、塩尻マラソンが最長10kmであることから、県内マラソン大会全体と最長10km以下で大会を実施しているもので分けて分析を行った。県内最長10km以下の大会は、16大会(25.8%)であった。

県内マラソン大会受付の状況を図表Ⅱ-5で示す。県内マラソン大会全体の受付で最も多いのが、大会当日のみで31大会(50.0%)、大会前日と当日の両日が22大会(25.5%)、大会前日のみで9大会(14.5%)であった。塩尻マラソン同様、大会種目が最長10km以下の大会の受付で最も多かったのが、当日のみで11大会(68.8%)、大会前日と当日で5大会(31.2%)であった。受付前日のみは、行われていなかった。

県内マラソン大会運営の状況を図表Ⅱ-6に示す。大会全体で行われているもので上位は、交通案内54大会(87.1%)、参加賞53大会(85.5%)、記録計測50大会(80.6%)の順で8割強であった。最長距離が10km以下の大会運営で行われているものの上位は、記録計測と参加賞が15大会(93.8%)、次いで表彰が14大会(87.5%)となっていた。次に大会全体において、大会運営で行われていないものは送迎が19大会(30.6%)、売店が32大会(41.6%)、距離表示が29大会(46.8%)の順であった。最長距離が10km以下の大会運営では、送迎2大会(12.5%)、距離表示7大会(43.8%)となっていた。

県内マラソン大会交通機関別案内状況を図表Ⅱ-7に示す。大会全体では電車が53大会(85.5%)、車が47大会(75.8%)であった。最長距離が10km以下の大会では、電車と車が11大会(68.7%)であった。バ



〈図表Ⅱ-5 県内マラソン大会受付の状況〉

各項目	大会数 (%)		
	当日のみ	前日のみ	両日(前日,当日)
県内大会全体	31 (50.0)	9 (14.5)	22 (25.5)
最長10km以下大会	11 (68.8)	0 (0.0)	5 (31.3)

〈図表Ⅱ-6 県内マラソン大会運営の状況〉

項目	区分	大会数 (%)	
		有	無
距離表示	大会全体	29 (46.8)	33 (53.2)
	最長10km以下	7 (43.8)	9 (56.3)
給 水	大会全体	47 (75.8)	15 (24.2)
	最長10km以下	11 (68.8)	5 (31.3)
記録計測	大会全体	50 (80.6)	12 (19.4)
	最長10km以下	15 (93.8)	1 (6.3)
表 彰	大会全体	48 (77.4)	14 (22.6)
	最長10km以下	14 (87.5)	2 (12.5)
参 加 賞	大会全体	53 (85.5)	9 (14.5)
	最長10km以下	15 (93.8)	1 (6.3)
サ ー ビ ス	大会全体	35 (56.5)	27 (43.5)
	最長10km以下	10 (62.5)	6 (37.5)
売 店	大会全体	32 (41.6)	30 (48.4)
	最長10km以下	8 (50.0)	8 (50.0)
交 通 案 内	大会全体	54 (87.1)	8 (12.9)
	最長10km以下	12 (75.0)	4 (25.0)
送 迎	大会全体	19 (30.6)	43 (69.4)
	最長10km以下	2 (12.5)	14 (87.5)
駐 車 場	大会全体	45 (72.6)	17 (27.4)
	最長10km以下	10 (62.5)	6 (37.5)

スは大会全体、最長距離が10km 以下共に電車、車に比べて5割以下であった。

大会が用意した無料駐車台数（以下、駐車台数）について、大会全体で駐車台数の表示があったのは35大会であった。大会全体における駐車台数の平均値は553台であり、最頻値は500台であった。また、最長距離が10km 以下で駐車台数の表示は、8大会であった。最長距離が10km における駐車台数の平均値は575台であり、最頻値は300台であった。

塩尻マラソンは大会運営全般において送迎以外のすべての項目が行われていた。

〈図表Ⅱ-7 県内マラソン大会交通機関別案内状況〉

項目	区分	大会数 (%)	
		有	無
		あり	なし
電車	大会全体	53 (85.5)	9 (14.5)
	最長10km以下	11 (68.7)	5 (31.3)
車	大会全体	47 (75.8)	15 (24.2)
	最長10km以下	11 (68.7)	5 (31.3)
バス	大会全体	28 (45.2)	34 (54.8)
	最長10km以下	5 (31.3)	11 (68.7)

Ⅲ. スポーツイベントの経済波及効果の計測手法の考察

1. スポーツイベントにおける経済波及効果

最近、各国の政府や地方公共団体は地域や都市のブランド価値の向上、経済的・社会的効果などのさまざまな目的を達成するためにスポーツイベントを積極的に開催・利用している。とくに、地方公共団体は競争的にスポーツイベントを誘致・開催しているが、これにはスポーツイベントの開催による地域発展（活性化）への肯定的な経済的効果を期待する心理作用があるといえる。

そして、オリンピックやワールドカップなどの大規模スポーツイベントの開催による直接的な経済波及効果は大きく消費支出と投資支出によるものである。消費支出は組織委員会の運営および事業費の支出と国内外の観光客の消費支出で構成され、投資支出は競技場インフラ、宿泊施設、交通網などの投資支出で構成される。たとえば、日本は1998年に開催された長野冬季オリンピックで1兆5,365億円を投資し、4兆5,425億円の経済効果を創出した。これにより投資対比約3.05倍の生産誘発効果を得たとしている。〈図表Ⅲ-1〉はオリンピックという超大型スポーツイベントの開催による経済効果を示したものである。

〈図表Ⅲ-1〉オリンピックの経済効果

オリンピック	経済効果	雇用(名)
1984年LA	23億ドル	73,375
1988年ソウル	25億ドル	336,000
1996年アトランタ	51億ドル	77,026
2000年シドニー	38億ドル	90,000
2010年バンクーバー*	69億5千万ドル	89,000

*は推定値である。

資料：PWC, InterVISTAS

一般的に、スポーツイベントの開催による経済波及効果は産業連関関係により現れる経済的波及効果であるといえる。このスポーツイベントの開催による経済的波及効果とは、スポーツイベントが最終需要部門において追加的な増加を派生し、その増加が継続的に追加的な生産を派生し、追加生産により発生する付加価値の一部が最終需要に回され、それがまた新たな付加価値を派生させる循環が連鎖的に発生することを意味する。

このような派生効果は直接的な効果と間接的な効果に区分することができるが、スポーツイベントの開催による投資支出および運営支出、消費支出などが直接的な効果を派生させ、関連産業の生

産増大および雇用増大などを誘発する間接的・2次的な効果を派生させるといえる。

2. スポーツイベントの経済波及効果の計測手法^{註III・1)} - 産業連関分析の検討 -

(1) 産業連関分析の意義

一国家経済において各産業は、財とサービスを生産と分配するプロセスをつうじて間接的、または直接的に相互に連関関係を結んでいる。このように生産活動をつうじて行われる産業間の相互連関関係を数量的に分析をする手法を産業連関分析 (Interindustry Analysis)、または投入産出分析 (Input-Output Analysis)^{註III・2)}という。

一般的に、国民経済の循環プロセスは所得循環 (circular flow of income) と産業間の生産物循環 (circular flow of production) の2つの側面から把握することができる。所得循環は所得の発生から分配および処分プロセス、すなわち生産活動の結果から発生した国民所得が利潤、賃金、利子などの形態で分配され、消費財と資本財の購入という処分活動をへて再び次の生産過程へ投入されていくプロセスのことである。また、産業間の生産物循環は生産部門相互間の財とサービスの取引を表すので産業間の連関関係を把握するのに有効な手法である。

産業連関分析は構造的側面で産業間の連関関係を把握するメリットをもち、最終需要による生産、所得、雇用など各種波及効果を産業部門別に区分し分析することができるので、経済政策の樹立、政策効果の測定などに有効に用いられている²⁰⁾。

(2) 産業連関分析の基本仮定

産業連関分析は、あくまでも経済モデルの1つにすぎず(もちろん、その有効性は十分実証されている)、その分析はある一定の条件 (仮定)²¹⁾のもとに行うべきである。したがって、産業連関分析による測定結果を用いる場合には、次のことに十分に留意して活用する必要がある。

【基本仮定1】結合生産の不存在 (on joint production) : 各商品と各産業部門とは1対1の相対関係にある。すなわち、1つの産業は、ただ1つの生産物を生産する。ある生産物を生産するための手段はたった1つしかなく (非代替定理)、ある部門の生産活動により複数の生産物が結合生産されることはないと仮定する。

【基本仮定2】比例性 (proportionality) : 生産水準とその投入量は規模に関し一定 (constant returns to scale) である。すなわち、大量生産することにより、コストの削減が可能となるような生産規模の経済性はなく、生産水準が2倍になれば、原材料など投入量も2倍になると仮定する。言い換えれば、各部門が使用する投入量はその部門の生産水準に比例することを仮定する。

【基本仮定3】加法性 (additivity) : 各産業間の相互干渉はないと仮定する。たとえば、工場の生産活動により発生した公害が農業の生産を抑制するように、ある産業の活動が他の産業の活動に及ぼす負の影響 (外部不経済) や、逆にある産業の活動が他の産業の活動に対し、意図せずに及ぼす正の影響 (外部経済) を考慮しないと仮定する。したがって、各産業間における相互干渉がないことにより、各産業部門が生産活動を個別に行った場合の効果の和と、各産業部門が同時に生産活動を行った場合の総効果は等しいとする。

(3) 産業連関分析の基本モデル

下記の表で提示した2部門の産業連関表 (input-output tables、IO表) を用いて、産業連関分析の基本モデル²²⁾ を構築してみると、次のようである。

<図表Ⅲ-2> 2部門の産業連関表

供給部門 \ 需要部門	中間需要		最終需要	総生産額(産出)
中間投入	Z_{11}	Z_{12}	Y_1	X_1
	Z_{21}	Z_{22}	Y_2	X_2
付加価値	W_1	W_2		
総生産額(投入)	X_1	X_2		

まず、中間財部門 (sector of intermediate goods) を構成する Z_{ij} は j 部門で使用する i 財の量を意味し、 Y_i は i 部門の生産物に対する最終需要額を表し、 W_j は j 部門の労働、資本などの生産要素の購入を表す付加価値部門 (sector of value added) を意味する。 X_i は i 部門の総産出を表す。産業連関表を行 (row) でみると、各産業部門の生産物の販売構造、すなわち配分構造を表す。したがって、 z_{11} は 1 部門の生産物を 1 部門に販売した量を意味し、 z_{12} は 1 部門の生産物を 2 部門に販売した量を表す。そして、総産出 (X_i) は中間需要 (z_{ij}) と最終需要 (Y_i) の和で求められる。

また産業連関表を列 (column) でみると、各産業部門の費用構成 (cost mix)、すなわち投入構造を表す。したがって、 z_{11} は 1 部門が 1 部門から購入した中間財の量を意味し、 z_{21} は 1 部門が 2 部門から購入した中間財の量を表す。総投入 (X_j) は中間投入 (z_{ij}) と付加価値 (W_j) の和で求められる。そして、経済内での総産出と総投入は一致する。

総産出額 X は中間需要と最終需要の和なので、産業連関表のヨコの和で求められ、次のように表すことができる。

$$X_i = \sum_{j=1}^n z_{ij} + Y_i \quad [1]$$

$$X = Z \cdot l + Y \quad [2]$$

(ただし、 l は 1 で埋まった列ベクター)

j 部門の総産出額の中、 i 部門に投入した中間財の比率を表す投入係数 (input coefficient,

technical coefficient) は $a_{ij} = \frac{z_{ij}}{X_j}$ として定義され、投入係数行列 A は次の式のように表すことができる

$$A = Z(X)^{-1} \quad [3]$$

(ただし、 X は各対角元素が X_i である対角行列)

式 [1] に式 [3] を代入すれば、総算出は次の式 [4] のように導かれる。

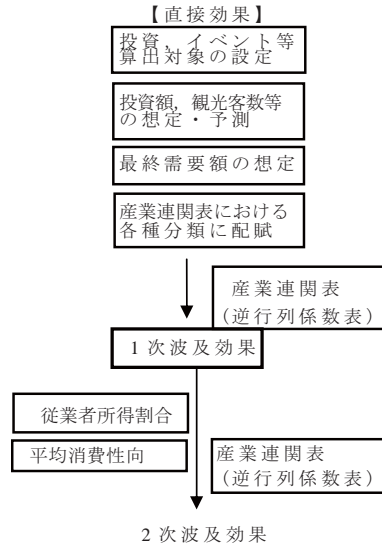
$$\begin{aligned} X &= AX + Y, \\ X &= (I - A)^{-1} Y \end{aligned} \quad [4]$$

このとき、 $(I - A)^{-1}$ をレオンチェフ行列 (Leontief inverse)、または投入逆行列 (input inverse) という。

(4) 産業連関分析の基本的算出方法

産業連関分析においては、まず逆行列係数表を用いて政策事業やイベントなど計算の対象を設定

し、その結果、新たに生じる最終需要額を予測する。そして、予測値を産業連関表の産業部門に当てはめ、逆行列係数に乗ずれば経済波及効果が求められる(図表Ⅲ-3)²³⁾。



<図表Ⅲ-3> 経済波及効果推計のフローチャート

資料：佐竹繁春「事業の経済的インパクト計測方法－産業連関分析入門－」『NRI Public Management Review』Vol.37, Nomura Research Institute, 2006年、3頁

Ⅳ. 第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレースの産業連関分析

1. 分析方法

この分析では「平成12年度長野県産業連関表」^{注Ⅳ-1)}に基づき、産業連関分析を用いて推計したものである。なお、本分析ではロードレースの運営それ自体から生じる経済波及効果を計測するために参加者などの消費などは考慮せず、イベント開催の経費のみ(図表Ⅳ-1)に限定して分析を行った。

<図表Ⅳ-1> 大会運営費(支出) (中途決算)

項目	金額(円)
参加賞費	716,250
保険料	67,850
食料費	246,719
謝礼	75,000
印刷製本費	1,224,775
消耗品費	23,998
景品費	296,664
広告費	54,268
観光サービス費	334,874
安全対策費	421,722
計時費	923,610
通信費	73,552
振替手数料	10,000
合計	4,509,282

2. 本分析結果の利用上の留意点

産業連関表による経済効果の推計は、あくまでも経済モデル分析の1つであり、そこにはいくつかの基本的仮定と前提条件（Ⅲ-2-2）などの留意点がある。本分析においては、次のような事項に十分に留意し活用すべきである。

まず第1に、平成12年度の長野県産業連関表の産業構造により分析しており、「投入係数」と「行列係数」を一定と仮定している。

第2に、価格は平成12年度の価格である。

第3に、1つの生産物は、ただ1つの生産部門から供給される。

第4に、生産波及効果が、達成される期間は不明である。

第5に、この分析では主催者の大会の支出費（運営費・開催経費など）のみによる分析である。

3. 分析における用語の解説

（1）産業連関表

産業連関表は、国内経済において一定期間（通常1年間）に行われた財・サービスの業間取引を1つの行列（マトリックス）に示した統計表で、5年ごとに関係省庁の共同事業として作成されている。産業連関表は日本国の経済構造を明らかにする基礎統計として、経済の波及効果分析や予測、国民経済計算などの経済統計の基準値として利用されている。

（2）経済波及効果

経済波及とは、ある産業に対して生じた最終需要がその産業の生産を誘発するとともに、それにより次々と各産業の生産をも誘発していくことをいい、その生産誘発額は直接効果、第1次間接効果、第2次間接効果の3段階に分けて計算（推計）を行うのが一般的である。

①直接効果

消費や投資などの最終需要により生じる最初の生産増加額のことを指す。

② 第1次間接効果

新たな生産（直接効果）により生じた原材料などの投入によって県内各産業部門で誘発された生産額のこと、直接効果と第1次間接効果をあわせて「第1次波及効果」という。

③第2次間接効果

第1次波及効果（直接効果および第1次間接効果）に伴って発生した雇用者所得が新たな消費需要（民間消費支出）にまわり、それにより誘発された生産額のことである。この第2次間接効果を「第2次波及効果」ともいう。

④総合効果

第1次波及効果と第2次波及効果（第2次間接効果）の合計額のことである。

4. 大会運営費に基づく本ロードレースの経済波及効果の推計

本ロードレースの経済波及効果を推計した結果は次のようである。

（1）直接効果

本ロードレースによる経済波及の直接効果として4,726,540円と推計することができる

（2）第1次波及効果

本ロードレースによる経済波及の第1次効果として7,162,850円と推計することができる。

（3）第2次波及効果

本ロードレースによる経済波及の第2次効果として1,787,602円と推計することができる。

(4) 総合効果

本ロードレースによる経済波及の総合効果は8,950,452円で、大会運営経費4,509,282の約1.98倍の経済波及効果が得られたと推計できる。

なお、本推計には用いられていないものの、大会参加者などによる地域への消費活動などにより実際の経済波及効果はこれ以上であると考えるのが妥当であろう。

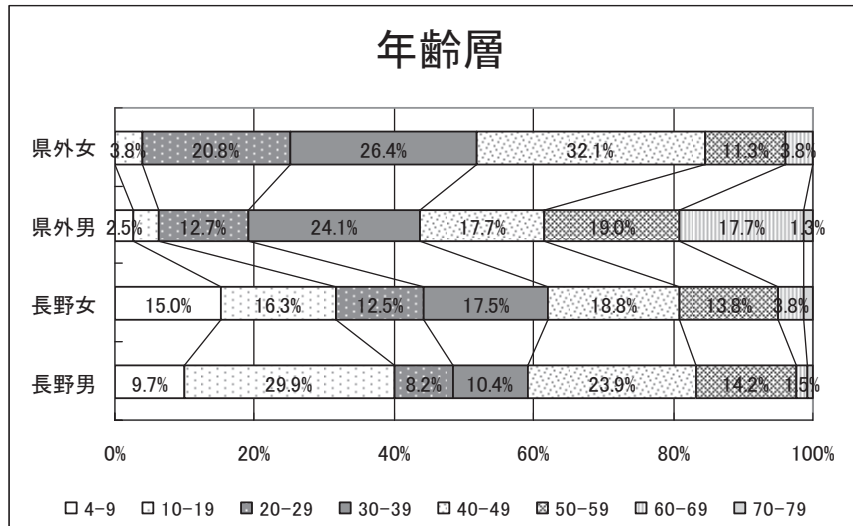
〈図表Ⅳ－２〉 第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレース」の経済波及効果の推計

経済波及効果	金額
直接効果	4,726,540円
第1次波及効果	7,162,850円
第2次波及効果	1,787,602円
総合効果	8,950,452円

V. 第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレースへの参加者の実態と意識

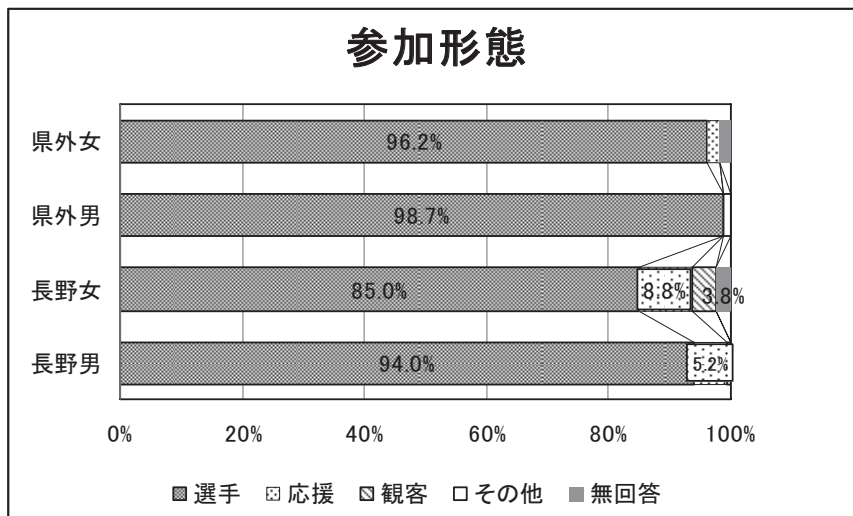
ぶどうの郷ロードレース参加者に対して参考資料の資料1に示したアンケート票を用い、直接面接法により質問紙調査を実施した。調査場所は、会場である松本歯科大学グラウンドの横に設置された無料ぶどう配布場横であった。ゴール直後のランナー及びその周辺にいた参加者に対して調査は行われ、被調査者は会場に並べられたテーブルで調査者の説明を受け記入した。回答者は参加者1357人中349人であった。性別は男性214人(61.3%)、女性133人(38.1%)であった。参加者の居住県は長野県216人(61.9%)、長野県外132人(37.8%)、無回答1人(0.3%)であった。長野県以外の参加者は愛知県25人、東京都24人、埼玉県15人、神奈川県11人、岐阜県11人、群馬県8人、静岡県8人、山梨県8人、千葉県6人、大阪府4人、茨城県3人、兵庫県2人、三重県2人、京都府1人、滋賀県1人、新潟県1人、福岡県1人、福島県1人であった。よって、性別および長野県内と長野県外に分けてクロス集計を行った。

図表Ⅴ－1はアンケート回答者の長野県内外居住別兼男女別年齢層の割合を示している。長野県内居住の男性は5歳から73歳(134人)、女性は4歳から71歳(80人)、長野県外居住の男性は7歳から70歳(79人)、女性は10歳から68歳(53人)であった。回答者は長野県内居住男性では10歳代が最も多く29.9%(40人)であり、以下40歳代23.9%(32人)、50歳代14.2%(19人)の順であった。長野県内居住女性は20%を超える年代層はなく、40歳代18.8%(15人)が最も多く、以下30歳代17.5%(14人)、10歳代16.3%(13人)、9歳以下15.0%(12人)、50歳代13.8%(11人)の順であった。4～9歳、10代、30代、40代、50代のいずれも近い割合であったが、一番多かったのは40代であった。長野県外居住男性は30歳代が24.1%(19人)と最も多く、以下50歳代19.0%(15人)、40歳代と60歳代がともに17.7%(14人)であった。長野県外居住女性は40歳代が32.1%(17人)と最も多く、以下30歳代26.4%(14人)、20歳代20.8%(11人)の順であった。



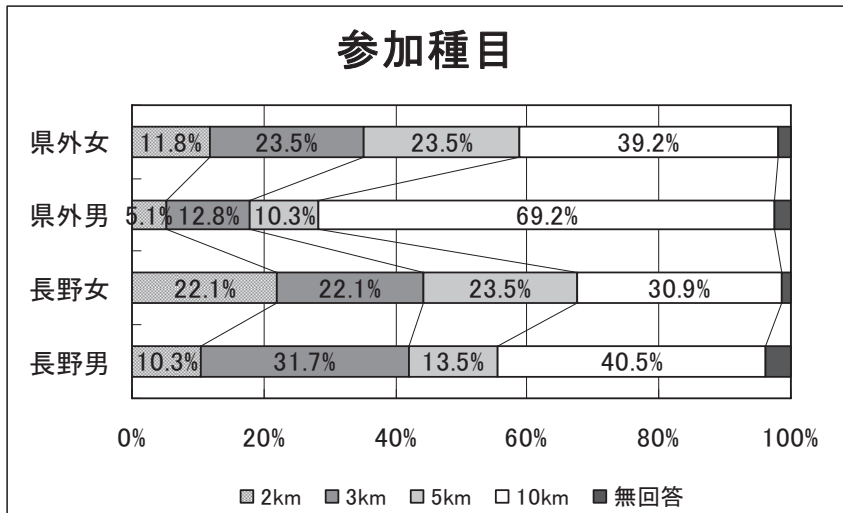
〈図表V-1〉 長野県内外居住別兼男女別年齢層の割合

図表V-2に長野県内外居住別兼男女別参加形態の集計を示す。長野県内居住男性は選手が94.0%、応援が5.2%、観客0.7%であった。長野県内居住女性は選手が85.0%、応援が8.8%、観客3.8%、無回答2.5%であった。長野県外居住男性は選手が98.7%、その他1.3%であった。長野県外居住女性は選手が96.2%、応援が1.9%、無回答1.9%であった。殆どの回答者が選手として参加していた。



〈図表V-2〉 長野県内外居住別兼男女別参加形態

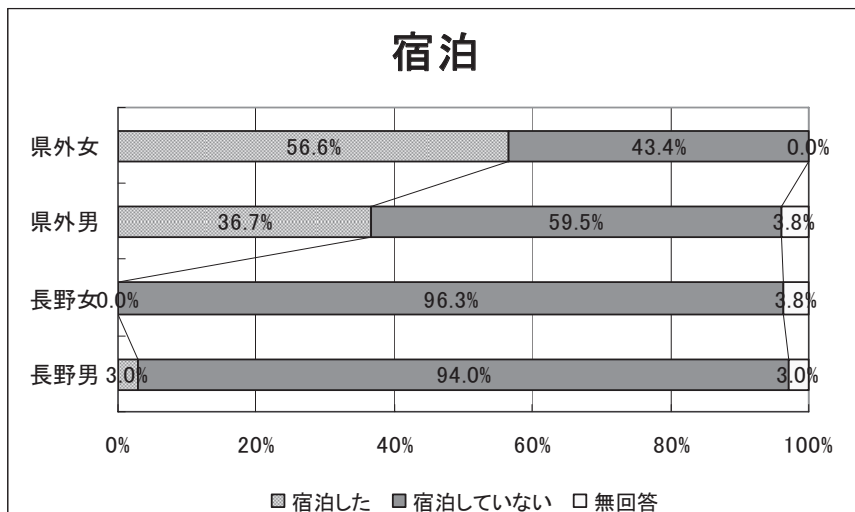
図表V-3に長野県内外居住別兼男女別参加種目の集計を示す。長野県内居住男性は2kmが10.3%、3kmが31.7%、5kmが13.5%、10kmが40.5%、無回答が4.0%であった。長野県内居住女性は2kmが22.1%、3kmが22.1%、5kmが23.5%、10kmが30.9%、無回答が1.5%であった。長野県外居住男性は2kmが5.1%、3kmが12.8%、5kmが10.3%、10kmが69.2%、無回答が2.6%であった。長野県外居住女性は2kmが11.8%、3kmが23.5%、5kmが23.5%、10kmが39.2%、無回答が2.0%であった。いずれも10kmへの参加者が多かったが、長野県居住女性は2kmの参加者が他に比べて多かった。



〈図表V-3〉 長野県内外居住別兼男女別参加種目

図表V-4に長野県内外居住別兼男女別宿泊の有無の集計を示す。長野県内居住男性は宿泊したが3.0%（4人）、宿泊していないが94.0%（126人）、無回答が3.0%（4人）であった。長野県内居住女性は宿泊したが0%、宿泊していないが96.3%（77人）、無回答が3.8%（3人）であった。長野県外居住男性は宿泊したが36.7%（29人）、宿泊していないが59.5%（47人）、無回答が3.8%（3人）であった。長野県外居住女性は宿泊したが56.6%（30人）、宿泊していないが43.4%（23人）であった。長野県内女性は宿泊なしであったが、長野県外居住の女性は宿泊者、宿泊した割合、共にトップであった。

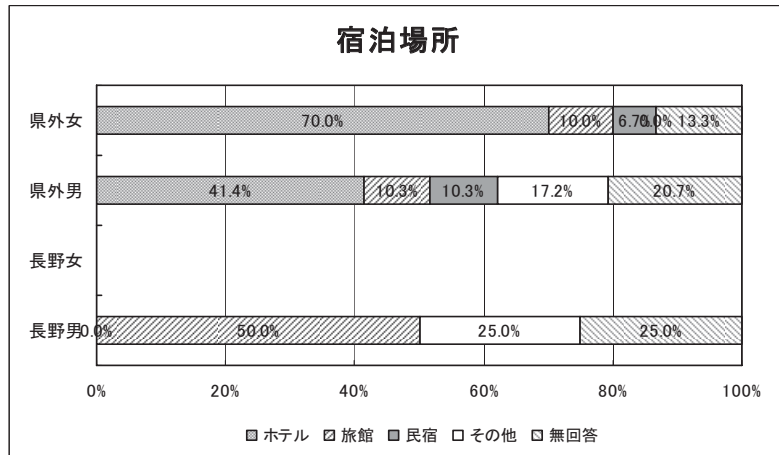
宿泊について長野県内居住男性は1泊が2名、2泊が1名、無回答が1名であった。長野県外居住男性は1泊が21名、2泊が1名、無回答が7名であった。長野県外居住女性は1泊が25名、2泊が3名、無回答が2名であった。1泊がどの区分でも多かった。



〈図表V-4〉 長野県内外居住別兼男女別宿泊の有無

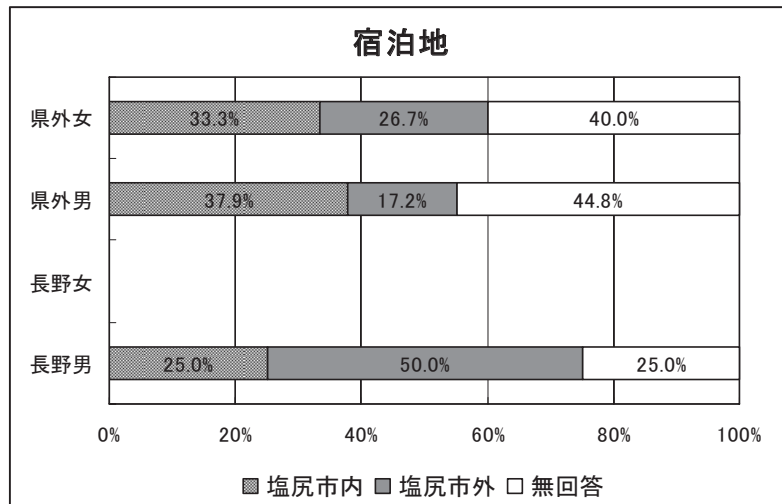
図表V-5に長野県内外居住別兼男女別に宿泊者がどのような施設に宿泊したかの集計を示す。長野県内居住男性は旅館が50.0%（2人）、その他が25.0%（1人）、無回答が25.0%（1人）であった。長野県外居住男性はホテルが41.4%（12人）、旅館が10.3%（3人）、民宿が10.3%（3人）、その他

が17.2%（5人）、無回答が20.7%（6人）であった。長野県外居住女性はホテルが70.0%（21人）、旅館が10.0%（3人）、民宿が6.7%（2人）、無回答が13.3%（4人）であった。県外者の女性は特にホテルを好んでいる。



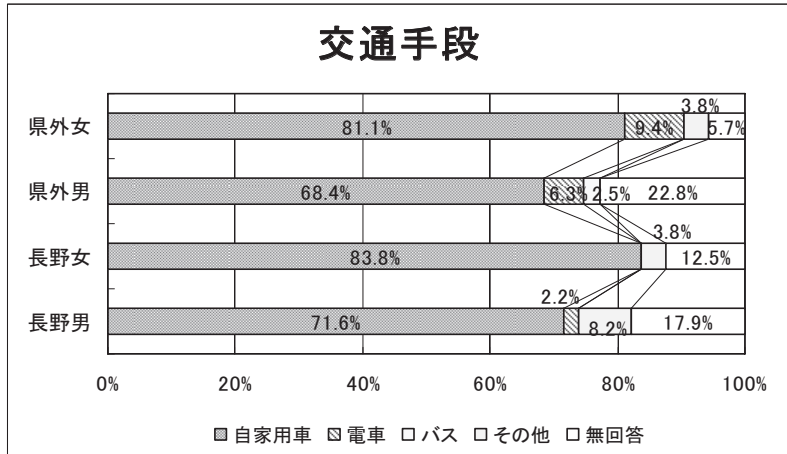
〈図表V-5〉 長野県内外居住別兼男女別宿泊場所

図表V-6に長野県内外居住別兼男女別に宿泊者が塩尻市にどのくらいの割合で宿泊したかの集計を示す。長野県内居住男性は塩尻市内が25.0%、塩尻市外が50.0%、無回答が25.0%であった。長野県外居住男性は塩尻市内が37.9%、塩尻市外が17.2%、無回答が44.8%であった。長野県外居住女性は塩尻市内が33.3%、塩尻市外が26.7%、無回答が40.0%であった。塩尻市外にも宿泊者は多く、無回答がここでも多かった。



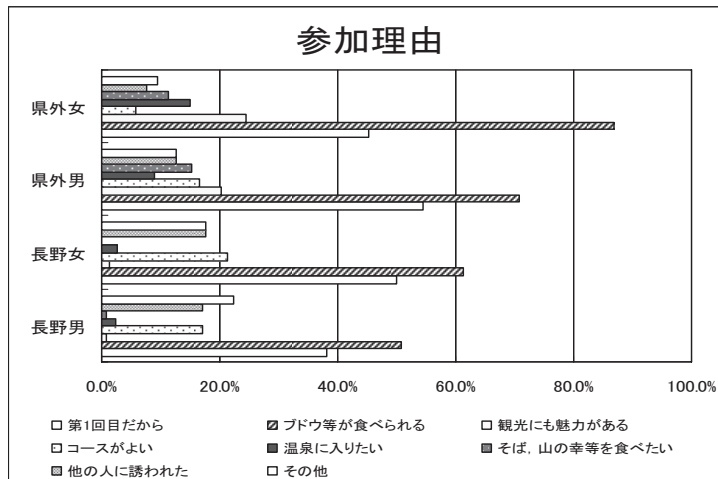
図表V-6 長野県内外居住別兼男女別宿泊地

図表V-7に長野県内外居住別兼男女別交通手段の集計を示す。長野県内居住男性は自家用車が71.6%、電車が2.2%、その他が8.2%、無回答が17.9%であった。長野県内居住女性は自家用車が83.8%、その他が3.8%、無回答が12.5%であった。殆ど自家用車で移動となっている。



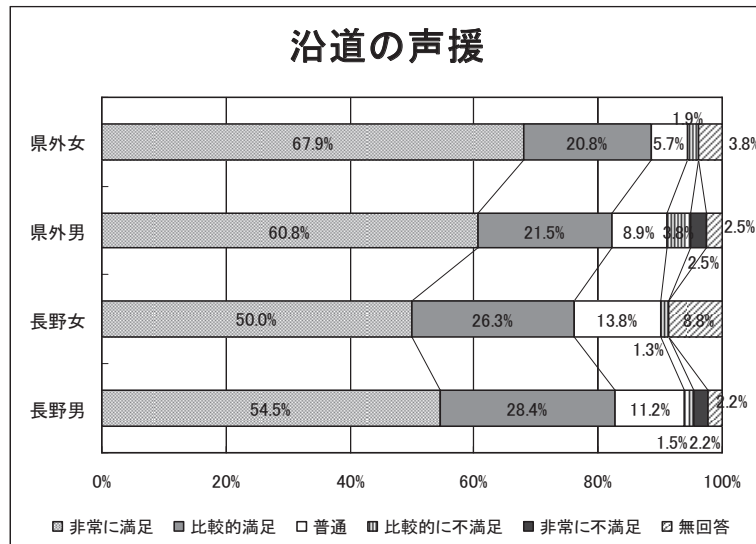
〈図表V-7〉 長野県内外居住別兼男女別交通手段

図表V-8に長野県内外居住別兼男女別参加理由を集計した結果を示す。参加理由（複数回答）を単純集計した結果は「ぶどう等が食べられるから」63.3%（219人）「第一回目の大会だから」45.7%（158人）「その他」17.1%（59人）、「コースがよい」16.2%（56人）の順である。長野県男性の参加理由は「ぶどう等が食べられる」50.7%（68人）、「第一回目の大会だから」38.1%（51人）、「その他」22.4%（30人）「コースがよい」17.2%（23人）の順であった。長野県女性の参加理由は「ぶどう等が食べられる」61.3%（49人）、「第一回目の大会だから」50.0%（40人）、「コースがよい」21.3%（17人）の順であった。長野県外居住の男性では「ぶどう等が食べられる」70.9%（56人）、「第一回目の大会だから」54.4%（43人）、「観光にも魅力がある」20.3%（16人）、「コースがよい」16.5%（13人）、「そば、山の幸が食べたい」15.2%（12人）の順であった。長野県外居住の女性では「ぶどう等が食べられる」86.8%（46人）、「第一回目の大会だから」45.3%（24人）、「観光にも魅力がある」24.5%（13人）、「温泉にも入りたい」15.1%（8人）の順となっている。どのクラス（県内男女、県外男女）でも第1位は「ぶどう等が食べられる」、第2位は「第1回目だから」であった。「ぶどうが食べられる」は県外女性、県外男性、県内女性、県内男性の順で高く、同じ居住地では女性の割合の方が男性よりも高くなっていた。また「その他」を除くと県内からの参加者の第3位は男女ともに「コースがよい」であったが、県外からの参加者の第3位は男女ともに「観光にも魅力がある」であった。県外者は、男女ともに観光、そば、山菜などの食、温泉と信州ならではの楽しみを一緒に味わいたいと思って参加している人がそれぞれ1割から2割いることが分かる。



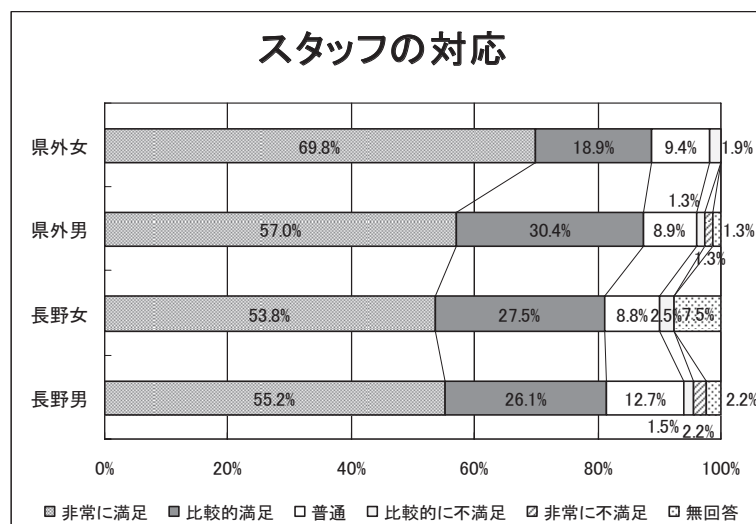
〈図表V-8〉 長野県内外居住別兼男女別参加理由

図表V-9に長野県内外居住別兼男女別の沿道の声援に対する満足度を示す。長野県内居住男性は非常に満足が54.5%、比較的満足が28.4%であった。長野県内居住女性は非常に満足が50.0%、比較的満足が26.3%であった。長野県外居住男性は非常に満足が60.8%、比較的満足が21.5%であった。長野県外居住女性は非常に満足が67.9%、比較的満足が20.8%であった。県外の方が県内者に比して声援に対する満足の割合が高く、特に県外居住者の女性の満足度が非常に高い。



〈図表V-9〉 長野県内外居住別兼男女別沿道の声援に対する満足度

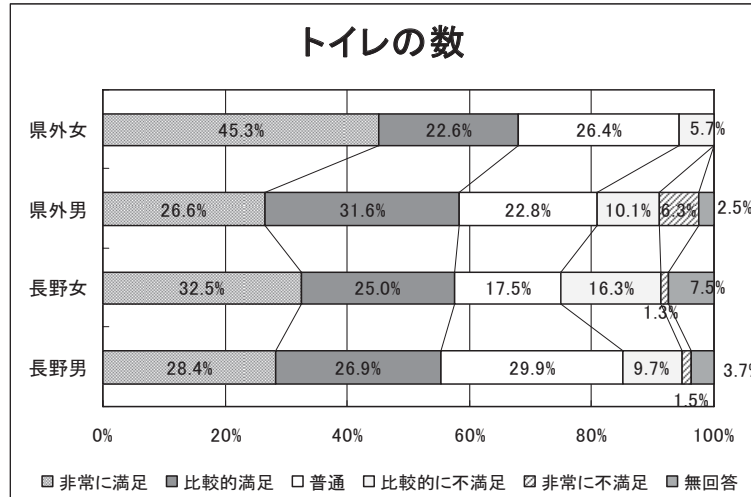
図表V-10に長野県内外居住別兼男女別スタッフの対応に対する満足度を示す。長野県内居住男性は非常に満足が55.2%、比較的満足が26.1%であった。長野県内居住女性は非常に満足が53.8%、比較的満足が27.5%であった。長野県外居住男性は非常に満足が57.0%、比較的満足が30.4%であった。長野県外居住女性は非常に満足が69.8%、比較的満足が18.9%であった。県外居住者のスタッフの対応に対する満足度が県内居住者に比して高かった。



〈図表V-10〉 長野県内外居住別兼男女別スタッフの対応に対する満足度

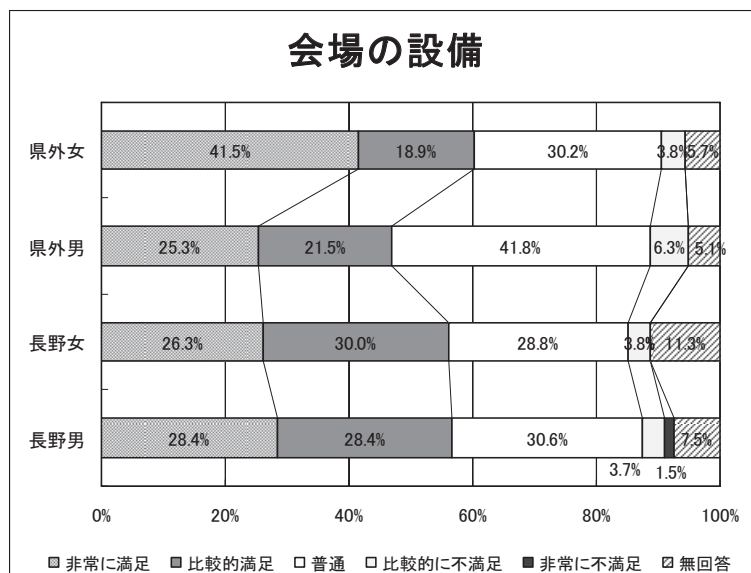
図表V-11に長野県内外居住別兼男女別トイレの数の満足度を示す。長野県内居住男性は非常に満足が28.4%、比較的満足が26.9%に対して、比較的不満足が9.7%、非常に不満足が1.5%あった。長野県内居住女性は非常に満足が32.5%、比較的満足が25.0%に対して比較的不満足が16.3%、非常に

不満足が1.3%であった。長野県外居住男性は非常に満足が26.6%、比較的満足が31.6%に対して比較的不満足が10.1%、非常に不満足が6.3%であった。長野県外居住女性は非常に満足が45.3%、比較的満足が22.6%に対して比較的不満足が26.4%、非常に不満足が5.7%であった。長野県外居住女性は非常に満足が45.3%、比較的満足が22.6%に対して比較的不満足が5.7%、非常に不満足が0%であった。トイレに対して不満足と答えた参加者が最大17.6%と他の質問に比べて不満を示す回答が多かった。



〈図表V-11〉 長野県内外居住別兼男女別トイレの数

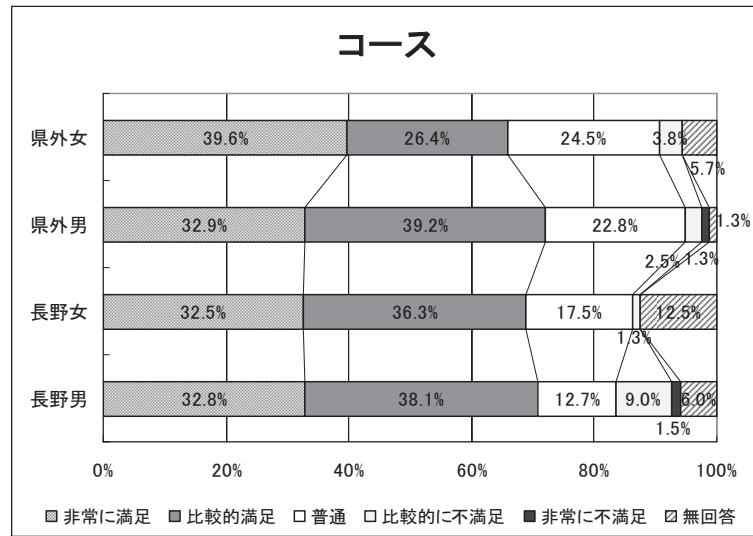
図表V-12に長野県内外居住別兼男女別会場の設備の満足度を示す。長野県内居住男性は非常に満足が28.4%、比較的満足が28.4%であった。長野県内居住女性は非常に満足が26.3%、比較的満足が30.0%であった。長野県外居住男性は非常に満足が25.3%、比較的満足が21.5%であった。長野県外居住女性は非常に満足が41.5%、比較的満足が18.9%であった。ここでは普通を答えた参加者が他の質問項目に比して比較的多かった。ただし、県外の女性は非常に満足と答えた参加者が多かった。



〈図表V-12〉 長野県内外居住別兼男女別会場の設備の満足度

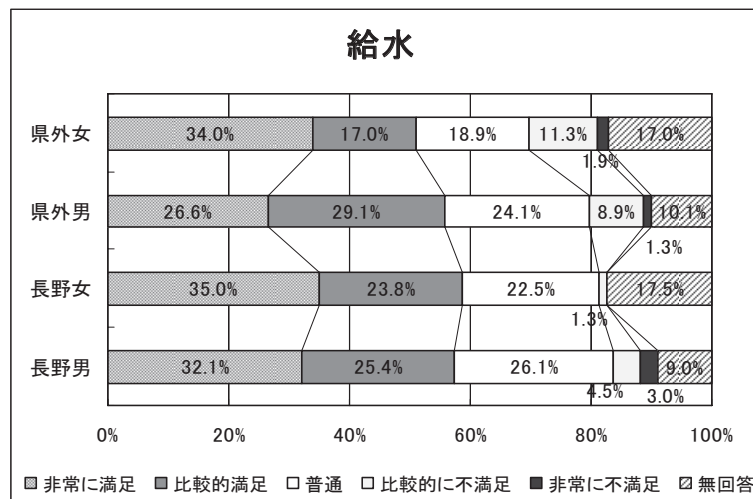
図表V-13に長野県内外居住別兼男女別コース満足度を示す。長野県内居住男性は非常に満足が32.8%、比較的満足が38.1%であった。長野県内居住女性は非常に満足が32.5%、比較的満足が36.3%であった。長野県外居住男性は非常に満足が32.9%、比較的満足が39.2%であった。長野県外居住女

性は非常に満足が39.6%、比較的満足が26.4%であった。県外の女性を除き、いずれも70%を超える満足度を示していた。



〈図表 V-13〉 長野県内外居住別兼男女別コースに対する満足度

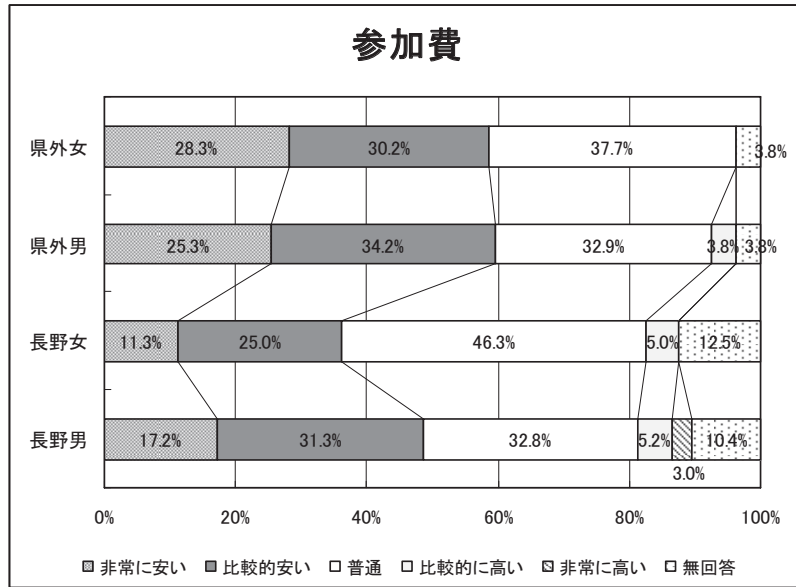
図表 V-14 に長野県内外居住別兼男女別給水の満足度を示す。長野県内居住男性は非常に満足が32.1%、比較的満足が25.4%であった。長野県内居住女性は非常に満足が35.0%、比較的満足が23.8%であった。長野県外居住男性は非常に満足が26.6%、比較的満足が29.1%であった。長野県外居住女性は非常に満足が34.0%、比較的満足が17.0%であった。いずれの群においても、満足度は60%未満であり、給水ポイントの増設等の課題を示していると言える。



〈図表 V-14〉 長野県内外居住別兼男女別給水

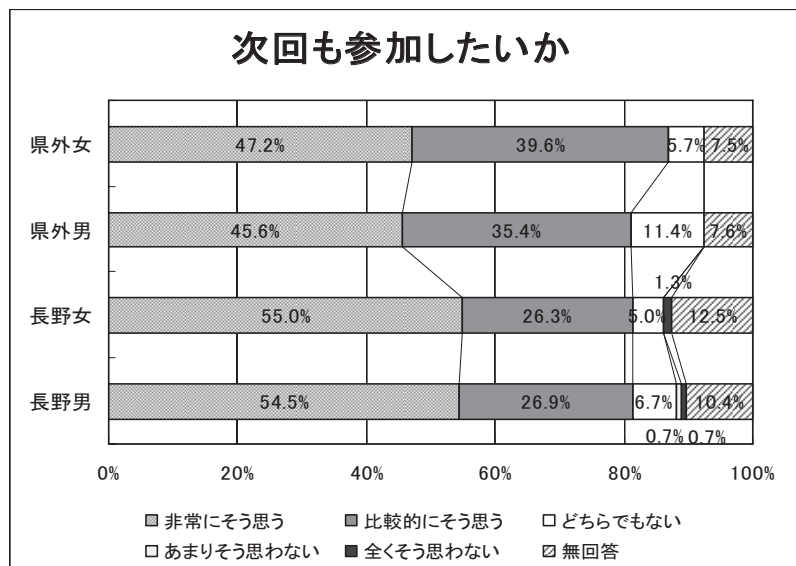
図表 V-15 に長野県内外居住別兼男女別参加費の満足度を示す。長野県内居住男性は非常に満足が17.2%、比較的満足が31.3%、普通が32.8%であった。長野県内居住女性は非常に満足が11.3%、比較的満足が25.0%、普通が46.3%であった。長野県外居住男性は非常に満足が25.3%、比較的満足が34.2%、普通が32.9%であった。長野県外居住女性は非常に満足が28.3%、比較的満足が30.2%、普通が37.7%であった。参加費については普通と答えた者の割合がどの区分でも多かった。また、県外からの参加者は、ほぼ6割近くの人たちが満足感を示しており、県内参加者に比して満足度は高か

った。



〈図表V-15〉 参加費

図表V-16に長野県内外居住別兼男女別に次回も参加したいかの有無を示す。長野県内居住男性は非常にそう思うが54.5%、比較的そう思うが26.9%であった。長野県内居住女性は非常にそう思うが55.0%、比較的そう思うが26.3%であった。長野県外居住男性は非常にそう思うが45.6%、比較的そう思うが35.4%であった。長野県外居住女性は非常にそう思うが47.2%、比較的そう思うが39.6%であった。いずれの群においても8割以上の参加者が次回も参加したいと思っている。特に県内からの参加者の半数以上が次回への強い参加希望を持っているとともに、県外からの女性の参加者が最も次回への参加希望が多い（86.8%）ことは、県外からの女性の誘客に今後発展して行く可能性を有しており、非常に重要な部分であると言える。



〈図表V-16〉 次回参加の意思

図表V-17aに長野県居住男性、図表V-17bに長野県居住女性の消費支出を示した。男女共にお土産代としてワイン・酒類の支出が多い。この表をもとに19歳以下と20歳以上39歳以下および40

歳以上の年齢別の支出も集計した。ワイン・酒類は40歳以上のみで購入している事が分かった。

長野（男性）	最大値	最小値	度数	平均値
交通費(現地内)	6,000	190	26	1,170.0
宿泊費	0	0	1	0.0
飲食費	5,000	0	23	1,543.5
a 生鮮畜産物	2,500	0	12	1,208.3
b ワイン・酒類	11,000	0	9	2,777.8
c パン・菓子類	1,500	0	7	562.9
d その他	4,500	650	6	1,775.0
その他	2,000	1000	2	1,500.0

〈図表 V - 17a〉 長野県居住男性の消費支出

長野（女性）	最大値	最小値	度数	平均値
交通費(現地内)	2,000	50	17	923.5
宿泊費	0	0	0	
飲食費	3,000	150	11	1,000.0
a 生鮮畜産物	2,000	100	4	775.0
b ワイン・酒類	3,000	1000	2	2,000.0
c パン・菓子類	2,000	1000	6	1,166.7
d その他	0	0	0	
その他	4,500	1000	2	2,750.0

〈図表 V - 17b〉 長野県居住女性の消費支出

図表 V - 17c に長野県外居住男性、図表 V - 17d に長野県外居住女性の消費支出を示した。県外居住者は宿泊費が一番多く、次に交通費が多かった。お土産代としては、ワイン・酒類の支出が最も多く、生鮮畜産物に対する支出が次いで多かったが、両者ともそれほど大きな違いはなかった。これは、県外居住者にとって塩尻のワインと同様に生鮮畜産物も大きな魅力となっていることを示している。また、男性に比して女性の方が宿泊費の支出が多く、ここでも女性参加者の獲得が経済的に有効であることが示唆された。この表をもとに19歳以下と20歳以上39歳以下および40歳以上の年齢別の支出も集計した。生鮮畜産物およびワイン・酒類の購入は40歳以上の方の購入が他に比して多かった。

長野県外（男性）	最大値	最小値	度数	平均値
交通費(現地内)	8,000	0	31	2,808.1
宿泊費	20,000	0	20	6,200.0
飲食費	7,000	500	36	2,397.2
a 生鮮畜産物	5,000	200	35	1,734.3
b ワイン・酒類	3,000	0	15	1,746.7
c パン・菓子類	2,000	340	8	892.5
d その他	10,000	0	5	4,490.0
その他	1,000	0	3	453.3

〈図表 V - 17c〉 長野県外居住男性の消費支出

長野県外（女性）	最大値	最小値	度数	平均値
交通費(現地内)	10,000	1000	25	3,336.0
宿泊費	17,000	1800	27	7,711.1
飲食費	5,000	900	30	2,712.7
a 生鮮畜産物	5,000	0	20	1,260.0
b ワイン・酒類	3,000	0	14	1,521.4
c パン・菓子類	2,000	0	7	928.6
d その他	6,000	0	6	2,433.3
その他	1,500	0	3	833.3

〈図表 V - 17d〉 長野県外居住女性の消費支出

塩尻ぶどうの郷ロードレース参加者からの意見を参加種目毎に分けて示した。長野県からの参加者については参考資料の資料 2a から 2e に、県外からの参加者については資料 3a から 3e に示した。

ロードレース当日は早朝は前夜の雨が多少残っていたが、参加受付が始まる頃からは晴れ間も見えだし、風は少し強かったものの天候には恵まれたといえる。参加者からの意見は概ね好評であり、詳細は資料 2 と 3 に示した通りである。ここでは次回のロードレースをよりよくするための参加者

の主な意見を紹介する。

「コース案内」については、“パンフレットにコース案内を載せてほしい”、“大会プログラムに各種目のコース図を載せて欲しい”など基本的な情報に対する意見が寄せられている。

「参加受付」に関しては、“前日から受付してほしい”、“参加案内のはがきにも受付時間や各種目のスタート時間を記してほしい”、“受付締め切り（8:45）からスタート（10:30）までが長すぎる”などの改善を望む声が寄せられている。

「コース」に関する意見は、“小学生の3キロのスタートが危険”、“スタートのとき道が狭い”、“スタートでグラウンドを1～2周するとコースに出たとき混雑が緩和されると思う”など、スタート時の改善に関する指摘があった。また、マラソンコースを走る車に対する安全対策を望む声も数名の方から寄せられている。

「距離表示」に関しては、特に10kmコースの参加者（18人）から“1km毎に表示をしてほしい”など、もっと細かく距離表示をしてほしいとの要望が多数の方から寄せられている。

「給水」に関しては、“給水所をもっと増やしてほしい”という要望が10人の方から寄せられている。3kmコースの参加者3名から“途中に給水所がほしい”という要望があった。

「その他」の意見としては次のようなものがあった。

- ・少し道に迷ったし、距離が徒歩で30分かかりました。（長野県外、女性空白）
- ・荷物の預かり所が欲しい。（長野県内、女性10km）
- ・手荷物の預かり所と更衣室があればよかった。（長野県外、男性2km）
- ・出展ブースをもう少し増やしてほしいです。（長野県外、女性5km）
- ・店やぶどうの会場がわかりにくい。（長野県外、男性10km）
- ・地方特産品の店を増やしてほしい。（長野県外、男性10km、3名）
- ・ランニンググッズの売店が少なかった。（長野県外、男性10km）
- ・無料のジュース類の場所が不便。（長野県外、男性5km）（長野県、男性空白）
- ・ぶどう食べ放題などの場所がわかりにくい。（長野県、男性空白）

VI. 地域スポーツイベントによる地域活性化戦略の構築

1. スポーツイベントの効果

日本は戦後の経済成長と共に都市化が進み、地方から都市への人口の流出、それに伴う地方の過疎化、高齢化という現象の中、いかに地域を活性化させるかが近年における重要な課題となっている。

地域活性化対策の一つとして各地で様々なイベントが開催されており、そのイベントには社会文化的効果および経済的効果が期待されている。社会文化的効果には、住民の郷土意識の醸成、地域を支える人材の育成、住民のまちづくりへの意欲の盛り上がりとしての住民意識の向上、スポーツ活動の普及・活発化およびスポーツ欲求の充足、新しい地域文化の創造、住民の生き甲斐づくりとしての文化・教養の向上、そして地域の知名度の向上、地域外参加者の誘客、地域イメージの向上としての情報発信、ならびに地域間交流の促進、地域の各種団体の協力体制の促進、地域住民のコミュニティの醸成などの交流促進がある。これらは、内なる充実と外への広がりを持つていくことができる。

経済的効果は、域内消費の拡大、宿泊・レクリエーション施設等の利用者数増加、地場産業の振興、地域の各種団体（観光協会、商工会等）の活性化、関連施設の整備事業による民間企業の活性化に伴う所得効果や産業振興効果をもたらす。また、近年においては、QOLの向上、心の豊かさ、健康志向の高まりを見せる中、特に参加型のスポーツイベントは単に短期的な経済的効果のみでなく、地域住民のスポーツ参加から派生するライフスタイルへのスポーツの導入を支援し、健康支援

および健康増進という長期的な経済的誘因効果を有する²⁴⁾²⁵⁾。

2. 塩尻市の社会資源と特徴からみた当該ロードレースの強み

(1) 大会参加理由

塩尻市は、平成20年4月 地域ブランドを構築するため「ブランド推進室」を設置し、地域ブランドの構築に力を入れ始めた。塩尻市には、個別の特産品としてワイン、ブドウ、漆器、レタスなどがある。また、奈良井宿に代表される街道文化や観光資源、清らかな水、それを生む森林といった豊かな自然という社会資源もある。しかし、どれにおいても全国的な知名度においては、もう一步のところであり、それがこれといった特徴がないといった意見に現れている²⁶⁾。

この様な状況の下、塩尻市の特産の一つであるぶどうをテーマにしたロードレースが行われた。参加者の参加理由で最も多いのは、「ぶどう等が食べられるから」63.3%であった。県内参加者を見ても「ぶどう等が食べられる」が男性で50.7%、女性で61.3%と共に第1位の参加理由であった。県外居住者においては、男性では「ぶどう等が食べられる」が70.9%、女性では86.8%と非常に高い割合を示した。これは本ロードレースがぶどうをテーマにしたことの妥当性を示している。特に県外からの参加者における本理由の割合が多いことは、「塩尻市=ぶどうの郷」というイメージの情報発信に大きな貢献をもたらすことを示唆している。本大会参加者は、まさに「ぶどう」を楽しみに塩尻まで走り来ていると言える。

(2) 参加者の満足感度

参加者の満足度をソフト面とハード面の両面から探った。ソフト面は「沿道の声援」と「スタッフの対応」である。ハード面は「会場の設備」「トイレの数」「コース」「給水」についてである。ソフト面においては、いずれも満足度が80%を超えていた。ハード面においては、給水の充実、コース・距離表示の充実、売店等の充実、情報提供・案内の充実が求められており、様々な課題が存在するなかで50%~70%の満足度であった。このような中でトータルとして次回も本大会に参加したいと思っている参加者は80%を超えていた。本大会はソフト面、特に「沿道の応援」と「スタッフの対応」という「ひとの温かさ」によって大会参加者の高い満足度が得られたことを示している。

沖縄の離島、1,900人余りの住民による手作りイベントで成功を収めている「いげなトライアスロン」大会の調査⁸⁾によるとボランティアに対する満足度は、4段階尺度で「満足した」「まあ満足した」を合わせて100%である。大会当日はほとんどの家が空っぽになると言う。子どもボランティアを含めた「島民挙げての暖かい応援と手作り性」が約6割のリピーターと9割以上のイベント全体への満足度を引き出していると考えられている。

また、1回目は306名の参加者で開催された大会が16回目には1万人を超える参加者を迎えるまでに充実・発展し、地域活性化の成功例として挙げられている鹿児島県の「指宿菜の花マラソン」を対象とした研究においても参加者のボランティアに対する満足度が最も高く、89年、90年の調査において2年とも95%を超えており、スポーツイベントにおけるボランティアの占める比重の大きさを示している⁹⁾。同大会における「ひと」に対する参加者の高い評価は、同大会における指宿市長の『「おもてなしを通じて、地元の人々と選手の皆様が深い心のつながりをもてる大会」を目指した大会』実現に向けた挨拶からもわかるように、その大会の理念と関係者の思いの結果と見ることができる。また同大会においてもハード面の「マラソンコース」および「トイレの数と場所」については、満足度が低く50%~70%となっている。

塩尻市ぶどうの郷ロードレースも指宿菜の花マラソンもソフト面及びハード面において同傾向な結果を示していることから、大会成功の大きな要因となるのは、参加者の満足度の中でも特にソフト面としての「ひと」の要因であることが推察される。

さらに参加者からの意見・感想からもわかるように「ぶどうの食べ放題」「ぶどうジュースの飲

み放題」に対する満足の意見が多数みられた。これは、参加者の欲求をしっかりと充足していたことを示している。

本大会への参加者は、まさに「温かな心とぶどう」に満足したことを示している。

(3) 塩尻市の特産と資源を生かす

「国民生活に関する世論調査」(2007年)²⁷⁾によると「今後生活のどの様な場面に力を入れたいか」という問いに対して「レジャー・余暇生活」が1983年以降最も多くなっている。旅行のタイプ別では「温泉旅行」が第1位(49%)、自然観光が第2位(41%)、グルメが第3位(37%)となっている。さらに、日本人の旅行市場の形態は国内旅行では72.4%が観光レクリエーション旅行・帰省や家事のための旅行であり、旅行先のシェアでは長野県(7.0%)が北海道(7.2%)について2位である²⁸⁾。宿泊観光旅行者の同行者の推移は、家族とが41.3%、友人・知人とが25.6%である²⁹⁾。

このように日本人の旅行人気スポットのベスト3は、温泉、自然観光、グルメであり、また最近の人気旅行形態は、能動的なものを好む傾向がある。塩尻市のみ限定せず、信州、松本平として捉えると、これらの要素がそろっていることが分かる。特に信州のイメージは、上高地、南北アルプスに代表される豊かな自然と温泉、健康、癒し、そしてそば、山菜などの食のみならず、善光寺、松本城をはじめとした数々の観光地としての知名度も有している。塩尻市は信州のほぼ中央に位置しており、上高地、北アルプス、松本城の玄関口として、如何にこれらの社会資源を生かすかが課題の一つである。

日本の国民はレジャー・余暇生活に対する欲求が高いものの、国内宿泊観光旅行の一人当たりの宿泊数及び回数をみるとそれぞれ平成19年において2.4泊、1.50回と余暇先進国であるフランスの5.6泊、4.2回と比べると非常に貧困な状態にある。このような状況下では、ある単一の目的のために旅行するというよりも、ついでに別の楽しみを享受したいと思うであろう。今回の調査結果からも県外からの参加者は、参加理由に観光への魅力、温泉、ぶどうはもちろんのこと、そばや山菜などの食への魅力を併せ持って参加している姿が伺える。

塩尻市は、ロードレースとぶどうを中心に、田舎ならではの温かな人柄、緑豊かな自然・そば、果物をはじめとする豊かな食文化、信州ならではの温泉、歴史文化等様々な社会資源を有し、活用できる所に位置している。塩尻市には、スポーツイベントに参加しながら温かな地域の人々と触れ合い、地域の特産物を食し、観光を楽しんだりといくつもの楽しみを一度に体験できる優位性がある。その道筋を参加者に示すことが参加者の満足度を高める仕組みづくりの一つであると思われる。

ニセコスキー場はオーストラリア人をターゲットとして、上質パウダースノー、地元食材に温泉を武器に成功を果たしている。塩尻市においても地域の特産および資源をしっかりと見極め、誰を対象にどの様なものを提供するかを明確にした上で、これらの資源を上手に生かすことが望まれる。

3. 塩尻市ロードレース大会のターゲット

長野県におけるマラソン系のイベントだけでも、年間62回開かれている。塩尻市と同時期の10月だけを見ても16回も開催されている。如何に同じ系統の種目が同時期に集中しているかが分かる。このような中で、塩尻市のぶどうの郷ロードレースは、どこに焦点を当ててゆくことが大切かを見極める必要がある。

塩尻市の本大会は、運営母体がNPO法人塩尻市体育協会であり、多くの地域のボランティアの方々の力を借りて開催しているが、スタッフの高齢化の問題も抱えているようであり、資金面から考えても決して楽観視できる運営状態ではないようである。

開催種目を見ても2kmのお楽しみコースから始まり、最も長い種目でも10kmと午前中で競技が終了するようにプログラムされている。このことから見ても本大会は、競技者というよりもいわゆる一般市民をターゲットにした大会であることが伺える。

参加者全体（1357人）から見た年齢別大会参加者数をみると2 kmお楽しみコース（218人）と中学生以下の参加者（182人）は全体の29.5%を占める。長野県内在住者（776人）だけで見ると43.0%（334人）となり、如何に若年層の参加者が多いかが分かる。また、5 km以下の種目参加者は全体の47.2%（640人）と半数近くを占めている。5 kmの距離というのは、市民ランナーにとってはものたりない距離であり、普段それほど走っていないくとも少し頑張ってみようという人たちにも手に届く距離である。このことは、本大会における日常的にランニングをしている市民ランナーの割合は決して多くなく、一般市民を主体とした大会の要素を多分に含むことを示している。また、小学生4～6年生（139人）及び2 kmのお楽しみコース参加者（218人）の割合が全体の26.3%にも及んでいることより、家族連れでの参加者が多いことが推察される。現地アンケート調査時においても家族連れで楽しんでいる様子が多数見受けられた。

参加者における女性の割合は、お楽しみコースを除いた全体（1139人）の29.9%（340人）であり、高校生以上の女性の割合もお楽しみコースを除いた全体の24.9%（283人）であった。中学生以上の男性（704人）を除いた女性及び小学生以下の子どもたちの占める割合は、全体の48.1%（653人）である。このことは、本大会が女性、子供たちの占める割合が高いことを示している。また、高校生以上60歳未満の男性（551人）を除いた全体の割合は59.4%である。これは、約6割が女性、中学生以下の子ども及び60歳以上の中高年者であることを示し、夫婦を含めた家族連れの参加者を加えるとさらに多くなることが予想され、このことから本大会が如何に60歳以上の中高年を含めた家族、女性、子供の占める割合が多いかが分かる。

また、10km種目女性においては、当該種目女性全体（167人）に占める県外者女性（102人）の割合が61.1%と高く、年代別では50歳以上が65.9%（29人）と最も高くなっている。10km種目男性においては、当該種目男性全体（550人）に占める県外者男性の割合は52.9%（291人）であるが、年代別にみると60歳以上は71.3%（77人）が男性と高い割合を占めている。他の年代における男性の割合はほぼ5割前後である。ランニング愛好者が好むような10km種目においては高い年代ほど県外者の割合が高く、中高年の愛好者が本大会のターゲットになりえることを示している。

さらに3 km種目において高校生以上49歳以下の女性参加者の68.4%（13人）が県外参加者であり、同種目50歳以上の女性の64.7%（11人）が県外参加者である。同種目の60歳以上の男性においても86.7%（11人）が県外からの参加者である。これらの数字は、自ら走ることを主目的にして本大会に来たと言うよりも、同伴者に誘われ、または、別の大きな誘因が存在し、ついでに折角だから短い距離に挑戦してみようという思いを物語っているように思われる。

50歳以上の中高年者（205人）のうち県外者の割合は63.4%（130人）を占める。県外からの中高年者の参加においてはランニング愛好者が81.5%（106人）を占める。これらのことより、比較的時間とお金がある中高年者のランニング愛好者が本大会のターゲットになることが推察される。

4. 塩尻市本大会におけるスポーツイベント戦略

（1）他地域とのコラボレーション戦略

塩尻市には、「ぶどう」と「人の心」がある。しかし、県外から誘客を考慮した場合、県外客のイメージは塩尻市のみにとどまらず、「信州」にある塩尻市に行くというイメージを持つことだろう。いわゆる「信州」の特産に期待してくる。その場合、信州の特産（イメージ）とは何か。それは、温泉、そばなどが代表的なものとしてあげられる。しかし、塩尻市にある温泉は決して多くない。そばに関してもお店はあるが、戸隠そば、開田そばのようなブランドはない。これらに関しては、地元の入浴施設ならびにそば専門店との協力を第一に考えながらも、必要に応じては他地域との協力関係を築くことも必要とされよう。地元で揃えられるものは揃えつつも、十分でないものは他地域とのコラボレーションを考えて参加者のニーズを満足させることが大切である。たとえば、塩尻市近郊の温泉マップを作る。特に今大会の参加者の8割近くは自動車を交通手段として使って

いる。会場においても近くに温泉はないかと尋ねている参加者もいた。県外からの参加者が581名おり、そのうちの390人が関東方面からである。150人以上が東海方面からきている。東京方面、名古屋方面、新潟方面への帰り道のどこに温泉があるかを示すマップを作ることが参加者の視点に立った大会運営であり、おもてなしであろう。

また、観光資源においても同様である。塩尻市内にある観光資源を生かしながら、近隣の全国的に名が通った観光名所に行くことができれば、より参加者のニーズを満足させることができる。塩尻市の枠を超えて地域連合体として参加者の視点に立って、参加者のニーズにあった「特産」の提供をすることができるかによって、大会参加者の満足度をより高められるかが決まってくる。参加者は塩尻市のために来るのではなく、自らの欲求充足のために来ると言えよう。故に、その欲求を如何に満足させるかが重要であり、それがリピーターの増大につながると思われる。その場所は塩尻市にあるか否かは参加者にとってはあまり重要ではない。如何に参加者の立場に立てるかによる。そのために、塩尻市以外の周辺地域とも連携をとりながら、参加者の欲求充足を目指して広くコラボレーションしてゆくことが必要であろう。

(2) 塩尻ならではの「ぶどう」の大会戦略

1) ぶどう狩り

ぶどうの郷と大会名に名乗っている本大会の売り（武器）は、なんと言っても「ぶどう」である。イベント参加者が会場を中心に如何にぶどうに触れられるかである。今大会においては、ぶどうの食べ放題、ぶどうジュースの飲み放題が好評を博していたが、その他にぶどう関連の提供はできないだろうか。先に挙げたように県外からの参加者は、4割以上に及ぶ。また、家族連れおよび子ども、女性の参加者が半数を占める。現在、参加型のイベントが人気を博していること、大会会場の周囲にぶどう畑が広がっていることを考えれば、「ぶどう狩り」のような自然に直に触れ合うことのできる楽しさを提供したい。レース終了後に近場でちょっとした時間で体験的な楽しみを得たい人、特に家族連れの参加者にとっては、子どもとともにぶどう狩りをし、楽しい思い出をもう一つ付け加えたいと思う人も多いであろう。お土産を持ち帰りたいという人にとっても最適である。

2) ワイン戦略

ワインも見逃せない。主催者側は飲酒運転を心配しているようであったが、参加者からの要望にもあったようにワインに対する期待は大きい。ワインが試飲できることが定着すれば、前泊、後泊が増えることも考えられる。前日に塩尻の物産展を絡めたワインパーティーを開催すれば前泊により経済効果が上がり、安全の問題もある程度解決するだろう。参加者に安全を訴えながら特産のワインを提供するなどの積極的な戦略が求められる。第Ⅱ章でも示したように、県内における10km以下の大会での前日と当日の2日間にわたる受付の開催数は3割を超える。前日に「楽しみ」を提供することによって、参加者のニーズを満たすとともに、経済効果を高めると考えられる。

「ぶどう」とランニング大会と言ったら「塩尻市ぶどうの郷ロードレース」と言われるような、これにおいては、他に引けを取らないと言う「ぶどう」の大会にすることが大切である。

3) 食イベント・地場産業とのコラボレーション戦略

午前中にイベントは終了する。昼食をどこでとるのか。何を食べるのかは参加者の悩みでもあり、楽しみでもある。アンケート調査にも出店の増加を希望する声があった。知らない地域で店を探す苦労はさけたいと思う一方、折角なので地元の、または信州のおいしい特産を食したいと思う人は決して少なくないであろう。それを解消するためには、主催者側で塩尻市にある人気のそば屋マップ、飲食店マップ一覧を提供する。また、その場で何かお昼としておなかを満たすものを提供する。そば屋にブースを出してもらおうよう協力依頼をするなどが考えられる。また、最近人気が出てきた「おやき」なども考えられる。松本のそば祭りのようなものを併せて開催してもいい。豚汁に地域

の方々の心が詰まったおにぎりでもいい。また、秋の味覚が詰まったキノコ汁、ヤマメ、ニジマス等溪流魚の焼き魚も考えられる。

漆器等の特産をアピールする場所ともなる。10年以上経たとしても長野五輪を知るものは多い。しかしながら、そのメダルが塩尻の漆器の技術と結びついていることを知るものは、少ないであろう。漆器関係のブースを出しながら、塩尻の特産を情報発信する良い機会である。

これらは、主催者側が店を出すのではなく、専門店とのコラボレーションによって主催者側の負担を減らす。そして参加者のニーズ及び満足度を高める必要がある。

(4) その他

1) 直送コーナーの設置

参加者は土地の特産品をお土産として購入する。今大会でも「販売している場所はどこか」「直送してくれるところはどこか」と訪ねる参加者の姿が多数目撃された。直送土産の受け付けがぶどうの配布場所のならびに欲しい。ブースのならびにお土産直送コーナーの設置が望まれる。

2) インフォメーションコーナーの設置

人が集まる売店等にインフォメーションコーナーの設置が望まれる。様々なニーズに対する的確な情報を提供することにより参加者の満足度を高めることにつながるであろう。併せて、塩尻市の特産・地場産業を発信する場として積極的にとらえたい。

3) 輸送システムとのコラボレーションによる「優しい」「手軽な」大会づくり

参加者の多くは自家用車を利用していた。しかしながら、環境に優しい大会、手軽に参加できる大会などのサブテーマを持つことによって、本大会をまた別な側面からアピールすることもできる。鉄道会社、バス会社とのコラボレーションを考え、環境面から参加者に公共交通機関の利用を訴えてもいい。オプションとしてバスを出すことによってぶどう狩り、温泉、ワインの試飲等と絡めることもできる。公共交通機関で来た人たちには、ボトルワインをプレゼントしても良い。大会開催場所が歩くには駅から遠いことが指摘されてもいた。送迎、または循環バスを用意するなど輸送システムに対し一考することにより、「優しい」「手軽な」大会となる可能性も有している。

VII おわりに

本研究は地域参加型スポーツイベントである「塩尻市ぶどうの郷ロードレース」を事例としてその経済効果と同一イベントの実態を明らかにするとともに地域活性化のための戦略について考察を行った。

その結果、塩尻市ぶどうの郷ロードレースの経済効果が895万円に及ぶことがわかった。また、長野県内におけるマラソン系の大会は10月に集中しているが、その中でも受付を早めに閉じなければならなかったほど本大会への参加希望が多数あった。これら参加者の主な参加理由は「ぶどう等の特産品が食べられそうだから」が一番多く、「第1回目だから」が2番目に多かった。次回にどのような影響があるかが懸念される場所である。

さらに本大会への全体的な満足度は高かったが、その要因は参加者の第一のニーズである「ぶどう」に対する満足度が高かったこと、また「ひと」というソフト面のサービスシステムに対する高い満足度にあることが明らかとなった。野川ら⁹⁾も指摘しているように地域活性化をもたらすスポーツイベント成功の鍵は、「地域住民による沿道の応援」、「スタッフの暖かい対応」に代表される「ひと」にあることが強く推察された。

本大会は子供と家族、中高年のランニング愛好家、女性を主たるターゲットにすることが望ましいと言える。加えてこれら参加対象者の副次的ニーズへの満足度を高めることが必要である。そのための対策を講じることが求められる。そのためには広く地域連合体を構想し、他地域とコラボレ

ーションすることが考えられる。また、食、特産品分野とのコラボレーションをすることにより、参加者のニーズを充足することが必要である。それが、集客効果を高めることに寄与すると考えられる。スポーツイベントを成功させ、地域を活性化するためには、どのようなストーリーを描くかが大切であり、スポーツイベントを観光旅行を誘発する観光資源とするならば、そのスポーツイベント自体が観光資源となるべく変容する必要がある。また、スポーツイベントに経済効果、地域形成などどのような地域活性化機能を求めるのかを明確にする必要がある。その目的によって、スポーツイベントの在り方が変わってくる。

スポーツイベントは今や単体で考えるものではなくなっている。スポーツイベントは、当該イベントをきっかけとし、また活用することにより「地域に存在する自然、歴史、文化、食、サービス、産業、特産品など有形・無形の観光資源の付加価値を高め、他の地域との差別化をはかることにより、優位性を持ち、旅行者が訪れ、共感、愛着、満足感を感じりピーター化し、同時に地域住民がその観光資源に自信と誇りを持つ」とともに、「地域振興の目的の達成を加速させ、持続させるため地域の価値を高める、もっとも有効な手段」としての観光地域ブランドを生み出す可能性を十分に秘めている³⁰⁾。

地場産業を中心に食、観光等々近隣の地域とコラボレーションすることにより、広く参加者のニーズに応えることによる集客数の増加と情報発信効果により、スポーツイベントをきっかけとした観光地域ブランドおよび特産地域ブランドを作り上げてゆくことが可能となる。

そのためには、本スポーツイベントによってどのように地域の活性化を図るのかを明確に提示する必要がある。具体的な目標および方法論の提示をするとともに、他地域、他分野、そして住民を巻き込んでゆくためのマネジメントシステムの構築および、地域住民・市民が中心となり、一体となったサービスシステムの構築が望まれる。これらが成功のカギを握っていると言えよう。

【付記】

本稿はNPO 法人塩尻市体育協会の依頼により第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレースの経済効果の分析結果等をまとめたものである。ご支援とご協力いただいたNPO 法人塩尻市体育協会と第1回塩尻市ぶどうの郷ロードレース関係者等に厚くお礼を申し上げる。

【注記】

注Ⅱ-1) マラソンとピクニックを合成したトレーニング方法。野山の長距離コースで、飲料水・地図などを持って半日から1日近くをかけて散策すること。トレーニングといっても、鍛錬性よりは娯楽性を重視したものである。ブラブラと歩いたり、気が向くとジョギングをしたり、疲れたら休憩や食事をしながら、自分のペースで散策を楽しむのである。ベテランなら自分のペースでリフレッシュできるし、初心者の場合はランニングなどを取り入れながらペースをつかむことから始めるなど、レベルに応じた楽しみ方がある。個人で楽しむ人もいるが、全国各地で開かれるイベントに参加しながら仲間を広げていくこともできる。¹⁸⁾

注Ⅱ-2) トレイルランニング (Trail running) は、ランニングスポーツの一種で、舗装路以外の山野を走るものをさす¹⁹⁾。

注Ⅲ-1) 地域経済への波及効果分析手法には、大きく地域乗数分析、地域投入産出分析、そして総合的評価技法などがある。

注Ⅲ-2) 産業連関表を用いた経済分析は、経済構造分析と狭義の産業連関分析に大きく分けることができる。すなわち、経済構造分析には取引基本表による分析(産業別生産額の状況、中間投入と付加価値の状況、中間需要と最終需要の状況、輸出入の状況など)、投入係数・逆行列係数による分析(影響力と感応度係数)などがある。狭義の産業連関分析、い

わゆる産業連関分析とよばれているものには、「均衡産出高モデル」と「均衡価格モデル」などがある。

注IV-1) 本稿では平成12年度長野県産業連関表を用いて分析を行ったが、平成22年1月に「平成17年度長野県産業連関表」が発行されている。

【引用・参考文献】

- 1) 国土庁大都市圏整備局(財)日本システム開発研究所、スポーツを核とした地域活性化に関する調査報告書、(財)日本システム開発研究所、1995、12-14
- 2) 財団法人日本イベント産業振興協会「地域イベントの実施・運営に関する調査研究」1999
- 3) 須田直行「地域社会におけるスポーツの役割」『都市問題』84(12)、1994、15-26
- 4) 大西隆「スポーツと地域活性化」『都市問題』84(12)、1994、3-14
- 5) 国土庁大都市圏整備局(財)日本システム開発研究所、スポーツを核とした地域活性化に関する調査報告書、(財)日本システム開発研究所、1995、16-19
- 6) 国土交通省観光庁「スポーツ観光の推進について」第1回スポーツ・ツーリズム推進会議資料1、平成22年5月18日
- 7) 観光庁ホームページ <http://www.tij.or.jp/report/databook2009.pdf>
- 8) 山口泰雄、生涯スポーツとイベントの社会学、創文企画、2005
- 9) 野川春夫・菊池秀夫・山口泰男・長ヶ原誠、スポーツイベントのマネジメントに関する研究(1)ーイベント参加者の視点からー鹿屋体育大学研究紀要第6号、1991、57-67
- 10) 菊池秀夫・野川春夫・山口泰男・長ヶ原誠スポーツイベントのマネジメントに関する研究(3)ー地域活性化の視点からー鹿屋体育大学研究紀要第6号、1991、77-84
- 11) 北村尚浩・野川春夫・柳敏晴・川西正志・萩裕美子・前田博子：スポーツイベントによる地域活性化の効果ー開催地住民の評価に着目してー鹿屋体育大学学術研究紀要第17号、1997、47-55
- 12) 野川春夫、工藤康宏：スポーツイベントと地域活性化に関する研究ースポーツツーリストの観光行動の視点からー鹿屋体育大学学術研究紀要第19号、1998、9-19
- 13) 山口泰雄・野川春夫、地域活性化におけるスポーツイベントの社会経済的研究、1992、平成3年度文部省科学研究費(一般研究C)研究成果報告書、1992
- 14) 野川春夫・山口泰雄、国内スポーツツーリズムに関する研究ー冬季スポーツイベントを事例としてー、鹿屋体育大学研究紀要第11号、1994、103-113
- 15) 加藤清孝・小林規：アルペンスキー大会が開催地域に及ぼす経済効果について、冬季スポーツ研究第8巻1号、2005、21-29
- 16) 株式会社アールビーズ：「RUNNET」<http://runnet.jp/> アクセス日2010年5月10日
- 17) 株式会社アプロード：「SPOTS ENTRY」<http://www.sportsentry.ne.jp/top.php> アクセス日2010年5月10日
- 18) yahoo「yahoo辞書」<http://d.hatena.ne.jp/keyword/> アクセス日 2010年5月23日
- 19) ウィキメディア財団「フレッシュアイペディア」<http://wkp.fresheye.com/> アクセス日2010年5月23日
- 20) THE BANK OF KOREA(2009), "2006INPUT-OUTPUT TABLES", pp.1-2
- 21) 宮沢健一編『産業連関分析入門』日本経済新聞社、1998年4月、81~82頁
- 22) 宮沢健一編『産業連関分析入門』日本経済新聞社、1998年4月。
- 23) 佐竹繁春「事業の経済的インパクト計測方法ー産業連関分析入門ー」『NRI Public Management Review』Vol.37, Nomura Research Institute, 2006年、3頁
- 24) 財団法人日本イベント産業振興協会「地域イベントの実施・運営に関する調査研究」1999、
- 25) 佐々木康「スポーツの経済波及効果」『スポーツの経済学』杏林書院、1999、128-138

- 26) 第四次塩尻市総合計画市民アンケート調査 <http://www.schola.jp/brand/img/enq.pdf>
- 27) 資料：内閣府「国民生活に関する世論調査」2007年
- 28) (財) 日本交通公社「旅行者動向 2008」
- 29) (社) 日本観光協会 平成19年度版「観光の実態と志向」
- 30) 株式会社ジェイ・アイ・シー旅の販促研究所編、社団法人 日本ツーリズム産業団体連合会、2009年4月、<http://www.tij.or.jp/report/databook2009.pdf>
- 31) 上条典夫『スポーツ経済効果で元気になった街と国』講談社、2002年5月
- 32) 安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出』学陽書房、2008年2月
- 33) 川口和英「ワールドカップ開催による地域への波及効果分析事例に関する研究－国際型スポーツイベント開催による波及効果の測定分析－」『鎌倉女子大学紀要』第11号、鎌倉女子大学、2004年3月、1～11頁
- 34) 深道春男・川野恭輔「大分国体等開催による地域経済波及効果の推計」1～28頁
- 35) Jeffrey Sachs, Felipe Larrain(1992),"Macroeconomics in the global economy,"Prentice-Hall.

【参考資料】

資料1

【第1回塩尻ぶどうの郷ロードレースの経済波及効果等に関するアンケート】

このアンケートは、「第1回塩尻ぶどうの郷ロードレース」が塩尻市経済に与える経済波及効果等を推計するため、このレースに参加された方等を対象に行うものです。ご回答いただいた結果を集計し、平均値等を参考にさせていただくもので、個人情報保護に関する法律及び関連法令等に基づき、厳重に管理し、回答内容を個別に公表することや、本目的以外に使用することはありません。

大変お疲れの中、恐縮ではございますが、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

松本大学人間健康学部(中島)・総合経営学部(成)
(電話:0263-48-7200,7342,7229)

I. 基本的な事項についてお聞かせください。

1. 性別 (男・女)
2. 年齢 ()歳
3. 居住地()都道府県 ()市町村
4. 参加形態と種目 ①選手:参加種目()kmコース・お楽しみコース
②応援 ③観客 ④その他()

II. 現地での宿泊についてお聞かせください。

1. した 宿泊日数()泊 ①ホテル ②旅館 ③民宿 ④その他()
宿泊地 ①塩尻市内 ②塩尻市外()
2. してない

III. 現地での消費支出についてお聞かせください。

- ①交通費(現地内) ()円
- ②宿泊費 ()円
- ③飲食費 ()円
- ④お土産代
(生鮮農畜産物) ()円
(ワイン・お酒類) ()円
(パン・菓子類) ()円
(その他)() ()円
- ⑤その他() ()円

IV. 現地までの交通手段についてお聞かせください。

- ①自家用車 ②電車 ③バス
- ④その他()

V. この大会に参加を決めた理由をお聞かせください。当てはまるものに○を付けてください(複数回答)。

- ①第1回目の大会だから ②ぶどう等の特産品が食べられそうだから ③観光にも魅力があったから ④コースが良さそうだから ⑤温泉に入りたいから ⑥そば、山の幸等の食事を食べたかったから ⑦他の人に誘われたから ⑧その他()

VI. この大会におけるあなたの満足度をお聞かせください。当てはまるものに○を付けてください。

[①非常に満足 ②比較的に満足 ③普通 ④比較的に不満足 ⑤非常に不満足]

1. 沿道の声援 (① ② ③ ④ ⑤)
2. スタッフの対応(① ② ③ ④ ⑤)
3. トイレの数 (① ② ③ ④ ⑤)
4. 会場の設備(テント等)(① ② ③ ④ ⑤)
5. コース(① ② ③ ④ ⑤)
6. 給水 (① ② ③ ④ ⑤)
7. 参加費(①非常に安い ②比較的に安い ③妥当 ④比較的に高い ⑤非常に高い)
8. 次回もこの大会に参加したいですか。
(①非常にそう思う ②比較的にそう思う ③どちらでもない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない)

VII. この大会に参加してのご感想、ご要望をお聞かせください。

* アンケートにご協力いただきありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

資料 2a 長野県からの参加者のご意見（男女 2km コース）

長野県	ご意見
2km男	次は3キロコースを走りたい。
	飲み放題の場所が遠すぎる。
	よく走れてよかった。
	来年は保育園のクラス全員で参加したいです。
2km女	2km年齢制限がなく子供も一緒に走れたのでよかった。
	子供(3歳)と走りました。ちょうどよい距離でよかったと思います。
	これくらいの人数の大会がのんびりしていていい。
	ジュース、ぶどう食べ放題うれしいです。
	楽しかった。
	疲れたけど楽しかったので来年もよろしくお願いします。
	天気にも恵まれて最高でした。スタッフの皆様ありがとうございます。
	とても楽しく走らせていただきました♪また来年も楽しみにしています。(走るコースに車が通るのは危険だと思います。)

資料 2b 長野県からの参加者のご意見（男女 3km コース）

長野県	ご意見
3km男	アップダウンもあったけど楽しかった。
	以外に早くてびっくりした。
	きつかった。
	グラウンドの回り方が回りづらかった。
	高低差があつたいい。
	コースがちょう長い。
	コースがわかりやすくなってよかった。
	コースの案内図を作成して張り出してもらいたい。コースの案内係の対応を統一してもらいたい(わからないと言われました)
	コースの途中に給水所を作ってください。
	コースの途中に給水所を作ってほしい。
	コースの途中に給水所を作ってほしい。
	坂がしんどかった。
	すごく楽しかったです。
	たくさんの年の人と走るととても楽しい。
	楽しかった。
	楽しかった。
	楽しかったです。
	疲れた。
	疲れたけど、とても楽しく完走できたのでよかった。
	疲れたけどみんなで走ると楽しかった。
	特産品が多いのがよかった。食べ放題、飲み放題のサービスが良い。
	特になし
	とても坂とかあったのでよかったです。
	なし
	のぼりが大変だった。
	非常にブドウやジュースがおいしかった。
	非常に良い。
	非常に良い。
	非常によい。楽しかった。
	ブドウのジュースがおいしかった。
もっとジュースを増やしてください。	
山が多くて景色がよかった。	

3km女	坂がきつかった。
	ジュースとぶどうが食べられるのがよかった。
	スタッフの皆様が一生懸命に対応してくださりよかった。温かみのある大会でした。ありがとうございました。
	楽しかった。
	楽しかった。ぶどうの種類を増やして欲しい。
	楽しかった。また来たい。
	のぼりはすごくキツかった。ブドウはすごくおいしかった。
	初めての大会でしたが、とても楽しく走れたのでよかったです。
	初めてのロードレース参加で、非常に早くて驚きました。
	ぶどうが食べ放題でよかった。
	ぶどうジュースがおいしかった。
優勝できたくさんの品を頂きありがとうございました。ぶどうが大好きなので	

資料 2c 長野県からの参加者のご意見（男女 5km コース）

長野県	ご意見
5km男	コースが面白かった。
	コースが自分的に楽しかった。
	スタッフの運営がすばらしかったです！
	ぶどうがおいしかたかったです。前年までのしのめ汁を楽しみにしていたのですが、なくて残念でした。
	ぶどうなど飲んだり食べたりできて楽しかった。
	満足です。ありがとうございました。
	1キロメートルのキロ表示があればよい。コースが走るまでわからなかった。
	来年は今年よりも、早く走れるようにがんばりたい。
5km女	各コース出発の時間を検討して欲しい。
	最高です。参加費に見合っていないのでは、皆さんの負担が大変ではないですか。
	最終だったので後ろから10キロメートルの集団が来て、渡れず、その後車が来て怖かった。
	最初ブドウやお店の場所に気がつかないかったです。楽しかったです、ご馳走様。
	スタッフの皆さんの対応が暖かかったです。ありがとうございました。ぶどうやぶどうジュース・麦茶大満足です。
	晴天で楽しい大会だった。ありがとうございました。
	大変よい大会で来年もあれば参加したいです。
	パンフにコースを書いてほしい(キロメートル別に)。
	ぶどう、ぶどうジュースのみ放題よかったです。来年はワインをぜひ！沿道の声援も多く来年もまたきます。

資料 2d 長野県からの参加者のご意見（男女 10km コース）

長野県	ご意見
10km男	10kmのスタートから500mまでの区間はもう少し広くしてほしい。1車線だけではあぶない。スタッフの皆さんありがとうございました。また来ます。
	1km 毎の距離表示がほしい。
	5km、7kmあたりで距離表示があるとよかったです。
	P係りの人が体育館の場所とかブドウサービスの場所などに不案内で、最初戸惑った。(売店もわからず)
	ありがとうございました。
	沿道の皆様の応援がパワーをくれました。5キロと10キロのスタート時間を10分から15分にしたほうがよい。給水はもう一箇所ほしいです。
	風が強く吹いている。
	距離の表示を増やして欲しい。
	距離表示を1km毎、給水は3km毎がベストだと思います。スポーツドリンクは薄めていい。
	キロ表示お願いしたい。
	キロ表示が1キロごとほしかった。ランナーズベスト100に入るくらい良いスタッフ対応でした。ありがとうございました。
	交通規制をもう少ししてほしい。
	コース上での残り距離案内板が少なくペース配分が難。
	コースも走りやすく、参加費も距離も適度によかった。
	塩尻北よりのインター案内なしでうまく現場へ入れた。P内の案内の人おろじ長高事しにくかった。
	次回応募のため案内を送ってください。
	スタッフが親切でよかった。
	スタッフや沿道の声援で気持ちよく走れました。またきます！
	大変良かった。ハーフコースを望む。歯科大の協力に感謝。
	楽しかったです。
	楽しかったです。ありがとうございました。
	楽しかったです。またやってください。
	楽しく走れたので第二回も行って欲しい。
	とてもよいコースだと思います。また参加します。
	とてもよいです。来年も参加します。
	とてもよかったです。
	場所良かった。風が強かった。
ブドウが特産品とは知らなかった。塩尻を知るきっかけになりました。	
ブドウ食べ放題で、梨一部はお土産にしてほしい。10キロスタート待たされる。10:30分スタートは一般の大会では無し。	
松本歯科大学の施設は素晴らしくいい会場でした。	
1. 参加賞にぶどうも加えて欲しい。2. スタートでグラウンドも1～2周するとコースに出たとき混雑が緩和されると思う。	
10km女	いい大会でした。ありがとうございました。最後のなだらかな上りがちょっときつかった。
	沿道の大きな声の応援にとっても助けられました。ありがとうございました。

思ったより応援が多くてよかった。案内書の内容に日程と大会図がほしい。ぶどうおいしい。学校のトイレが使えてよかった。
がんばっただけ楽しかったです。応援とてもたのしかったです。
距離の表示がもう少したくさんあるとうれしい。
最初にダッシュしすぎて、後1キロくらいでおじさんに応援されゴーゴーと走りましたが、おじさんのほうが速くて自分も一生懸命だったので5位に入れてよかったです。
参加賞のほかにブドウジュース飲み放題や、ブドウ無料配布があって太っ腹だと思いました。楽しめました。
女子の10k年代で、60歳以上もあつたらいいなー。
スタッフの皆様ありがとうございました。ぶどうetcありがとうございました。このままのサービスで♡
大会パンフに給水ポイントを入れてください。
楽しめました。ありがとうございました。キロ表示1キロごとにしてほしいかったです。
つらかったけど沿道の応援がとても励みになったしぶどううまかった。さすがしく走れました。
荷物の預かり所が欲しい。
残りの距離の看板をもっと低くしてほしい。1キロごとにわかるようにしてほしいです。
初めてでしたが、最後の坂がきつかったですが、ブドウを食べたり、飲んだりと楽しかったです。
初めてのレースで楽しい体験ができてよかった。
ブドウおしかったです。風に負けそうでしたが楽しく走れました。
ぶどうがおいしかった。1kmごとに距離の案内が欲しい。ペースがつかみにくい。

資料 2e 長野県からの参加者のご意見（男女、選手以外または未記入）

長野県	ご意見
空白男	10キロの待ち時間が長いので、9:15分にスタートしたい。アクエリアスのコップが大きすぎるかな？
	うれしかった。
	親子で参加できていい経験ができました。
	距離をママに示して。
	今後の永続に協力いたします。
	大会プログラムに各種目のコース図を載せて欲しい。(普通の大会プログラムにはある)ぶどう食べ放題などの場所がわかりにくいので案内図をわかりやすくして欲しい。
	来年はぜひ参加したいと思いました。
	陸上競技場が使用できてうれしかった。みんなお世話様でした。
空白女	車を止めること。次回も観客したい。
	コースをパンフレットに載せてほしい。
	前日受付して欲しいです。
	第一回ということでいろいろとスタッフの方々ご苦労様です。
	天気もよくぶどうもおいしく来年は自分も参加してみたい。

資料 3a 長野県外からの参加者のご意見（男女 2km コース）

県外	ご意見
2km男	手荷物の預かり所と更衣室があればよかった。
2km女	「北頂望走」Tシャツの参加賞に戻してほしい。カッコいい。丈夫。毎年色違いが欲しかった。
	楽しかったです。
	楽しかったです。
	とてもいい一日を過ごすことができました。

資料 3b 長野県外からの参加者のご意見（男女 3km コース）

県外	ご意見
3km男	UP,DOWNがあるが走りやすい。
	一回目だったから人数が多くて面白かった。また来たい。
	ジュース、ブドウ、自然がよかった。
	楽しかったです。
	非常にいい大会なので今後も続けてください。来年も家族で参加します。駐車場もたくさんあっていい。
3km女	一周目に押されてコケた；とても悔しかったです。
	駅から歩いて15分以上もかかりました。
	完走証場が混み合ってきた時整理に入ったスタッフがよい対応だと感心しました。ぶどう食べ放題コーナーの半分にカットした分量がちょうどよく2種類食べれてよかった（前半は1房だったので量としては多かったのだ）。
	コースも走りやすかったし、ぶどうの食べ放題とかうれしかったです。
	楽しい大会でした。スタッフさんありがとうございました。
	楽しく走ることができました。ありがとうございました。
	天気もよく楽しかったです。
	とても楽しく走れました。スタッフの皆様が気持ちよく対応していただき、ありがとうございました。
	走っているときとても苦しかったけど周りの人々の声援がとても温かかった。

資料 3c 長野県外からの参加者のご意見（男女 5km コース）

県外	ご意見
5km男	5キロコースで1キロの標識が見えなかった。なかった。
	ありがとうございました。
	楽しかったです。ありがとうございました。
	とても楽しかった。10キロの人が向かい風が大変でした、とのこと。
	無料のジュース類の場所が不便。わかりづらい。景色がよく気持ちよく走れた。少し風が強い。
5km女	ありがとうございました。来年もまたよろしく。
	沿道の声援が暖かかった。
	出展ブースをもう少し増やしてほしいです。
	声援(郷原街道の人たち)ありがとうございました。
	楽しかったですありがとうございました
	長野塩尻の方みなさんいいかたばかりでとてもうれしかったです。また参加します。
	ぶどうジュース等の場所がわかりづらい、一番手前に置いてほしい。シャワーが使えるのは珍しい。サービスがよい。

資料 3d 長野県外からの参加者のご意見（男女 10km コース）

10km男	10kmにて、2kmおきくらいで案内があるとうれしい。ぶどう美味しかったです。また来ます。
	10キロの場合スタートと受付の時間が開きすぎていると感じました。またはがきにも受付時間などの記述があるとよりわかりやすいと思います。
	ありがとうございました。
	沿道の声がすごく励みになりました。ありがとうございました。
	機会があればまた参加したいです。
	強風がきつかったですが、楽しく走れました。
	距離表示がない、概算でも表示すべき。
	距離表示を多くしてください。
	キロ表示が1km毎に欲しいです。
	キロ表示が欲しい。
	キロ表示をもう少し多くしてください。
	キロメートル表示1キロごとにしてほしい
	コースの車両通行止めを実施して欲しい。遠来費
	参加案内のはがきにも各種目のスタート時間を記してほしい。受付締め切り(8:45)からスタート(10:30)までが長すぎる。受付をもう少し遅くしてほしい。気持ちよく走れました。ありがとうございました。
	参加してよかった。
	参加料が安いのもう少し上げてほしいと思う。
	出展ブースを増やしてにぎやかにしてほしい。パントマイムや大道芸のショーをしてほしい。
	小学生の3キロのスタートが危険である。男女分けるとか検討してほしい。
	スタートのとき道が狭い。
	スタッフの方々は本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。
	選手に対して非常に気配りのある大会でした。
	地方特産品の店を増やしてほしい。
	特産品(地元)の売り場がもう少し多いといい。
	特になし。
	人数が増えたら安全のためスタートと時間を分けた方がいいかもしれません。
	ハーフマラソンもお願いします。
	ぶどう最高 応援も最高。
	ボランティアの方大変親切で非常に感じがよく、有意義な大変満足の大会でした。
	また参加したいです。
	満足です。残り距離を5キロ手前も2キロごとくらいに設置してあるとよかった。
店やぶどうの会場がわかりにくい。	
ゆったりしていてよかった。少し風が強い。山並みが素晴らしい。	
良いです。	
来年もやってほしいです。とても気分良く走れました。ジュースの飲み放題がうれしい。	
ランニンググッズの売店が少なかった。ゼッケンはぱっちゃんできるやつにしてください。	
ワインがあれば良い。	
10km女	遠藤の声援に励まされました。給水の数がもっとあるといいと思います。
	遠方からの参加でしたので、距離の表示が1キロか2キロごとにあると助かります。

開会式にストレッチ体操等あるとよいです。Km表示が1kmごとにあるとさらによくなると思います。
風さえなければもっといい記録が出せたと思う。
季節もいいし、また参加したい。
給水所が少ない。コースはとても気持ちがよく走りやすい。
給水所を2,3箇所増やしたほうがいい。キロ気表示を増やしたほうがよい。
距離をわかりやすくしてほしいです。1キロ間隔をお願いします。
これからもがんばってください。楽しかった。
スタッフの対応がよかったです。住民の方の応援もよかったです。最初の給水がもう少し早めでもいいかと思いました。
大学が広いので案内板をもう少し増やしてください。
地方の方の応援が暖かった。
眺めがとてもきれいで、気持ちよかったです。10キロ巨峰を食べると書いてあったのになくて疑問でした。
走りやすいコースでした。季節的なものかもしれませんが、風が強くて驚きました。
ぶどうおいしかったです。
ブドウすごくおいしかったです。楽しい大会でした！また来たいです。
ぶどうよかったです。

資料 3e 長野県外からの参加者のご意見（男女、選手以外または未記入）

県外	ご意見
空白男	大変お世話になりました。
	特になし
空白女	少し道に迷ったし、距離が徒歩で30分かかりました。